

視点

ことばを聴き、子どもたちと心の橋を架ける



子どもとことば研究会代表
元立教女学院短期大学教授 今井和子

今から半世紀も前のこと、希望に燃え保育園に勤めることになった私は、子どものことばに心を躍らせ、保育中ハッとしたことばを夢中でメモしてきました。10年が経過し、ことばへの関心が一層高まり、子どものことばに魅了されていた仲間たちと「子どもとことば研究会」を立ち上げ、各自が記録してきた子どものことばにどんな思いが込められているか「ことばから心の世界を探る」ことをテーマに語りあってきました。従来、子どものことばは北原白秋によって「口頭詩」として採集され、その後は「子どものつばやき」などと紹介されてきました。が、私はことばを、音声語として「耳で聞くことば」だけではなく、0, 1, 2歳児期の「ことば以前のことば」即ち、表情、喃語、しぐさなどことば獲得の過程で捉える「子どもの体が語ることば」も視野に入れ実践研究をしてきました。これはもちろん3歳以上児にも考えられることです。

*行動こそことばに代わることばである（園でのM君との出会いから）

ことばの遅れが見られたM男（2歳2か月）は、自分の思いが保育者や友だちに通じないとよく物を投げました。特に滑り台など高い所に砂場の容器やカラーボールなどを運び込み、友だちに向けて投げつけることがありました。始めはなぜ投げるのかも考えようとせず、とにかく危ないからやめなさいと叱ってばかりいました。ところが再三注意されても一向に投げる行為は止むことがなかったのです。しばらくして、M男が投げる相手が限られていることに気づき、投げる行為の意味を考えてみました。友だちに関心が出てきたけれども、他の子のように「お〜い。〇〇ちゃん」と声を出して呼ぶことができなかつたため、いくら「お〜お〜」と友だちに

呼びかけても誰も応じてはくれませんでした。物を投げる行為によって、友だちに自分の所在を知らせようとしたのではないかと気づきました。そこで私は、M男が滑り台に物を運び、友だちを見つけて投げようとした時「今、〇〇ちゃんに、お〜い、ぼくがここにいるよって言いたかったのね」と確かめ、私が代わりに呼んでみました。すると呼ばれた子がM君に向かって手を振ってくれたのです。M男も「お〜お〜」と嬉しそうに手を振ってそこに橋が架かったのです。

その後、M男は滑り台に上がるときは、保育者の手を引っ張って上がるようになりました。物を投げなくても、保育者が代わりに呼びかけてくれることを知ったのです。M男が投げた物は、友だちに呼びかけたかった彼のことばそのものだったのです。

保育者である私はこれまで、目に見える姿ばかりを見て「この子は乱暴だ」「物を投げて困る」と決めつけていました。ところがM男との出会いから「なぜ高い所から物を投げるのだろうか？」と子どもの行為の意味を考える、即ち動機、目に見えない心の理由を考えることで観えてくる子どもの世界を感じとっていくことが少しずつできるようになってきました。

こうして私は子どもたちと心の橋を架け始めました。そこにこそ保育の醍醐味を感じてきました。

ところが現代社会は、大人も子どももコミュニケーションが苦手になっていないでしょうか。橋はかかってもそこを行きかうことば・対話が極めて少なくなっています。対話は、大人も子どもも互いに人格を認め合い、対等な立場で向き合って話をすることです。そこにこれからの教育・保育の礎が築かれていくことをねがってやみません。

事業報告・事業計画案などを議決

平成29年度 定時総会 5月24日 東京・私学会館

平成29年度の定時総会は5月24日(水)、東京・私学会館において全国から評議員156人(委任状27人含)が出席して開催されました。

田中雅道副会長の開会のことばに続き、来賓の文部科学大臣・松野博一衆議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会会長・河村建夫衆議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟会長・中曽根弘文参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟事務局長・馳浩衆議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会副会長・遠藤利明衆議院議員、全日本私立幼稚園PTA連合会副会長・山本順三参議院議員、自由民主党参議院議員会長・橋本聖子参議院議員、自由民主党幼児教育議員連盟事務局長・山谷えり子参議院議員に挨拶をいただきました。また、全日私幼連吉田敬岳顧問にも挨拶をいただきました。来賓として、文部科学省藤原誠初等中等教育局長、村田善則高等教育局私学部長、先崎卓歩初等中等教育局幼児教育課長に出席いただきました。続いて、香川敬会長から「新制度施行3年目を迎えしっかりと検証していかなければならない。また、幼児教育振興法の一日も早い成立が待たれる。教育と経営の両立を目指し、努力していきたい」と挨拶がありました。その後、議長を選出に移り、内野光裕(東京・清瀬ゆりかご)、岡部圭二(大阪・高槻双葉)両氏を選出し、続いて12人の議事運営委員が紹介され、松下瑞應(和歌山・湯浅)議事運営委員長から総会成立の確認、議案と議事進行について説明がありました。議事録署名人には、石田明義氏(新潟・マハヤナ)、加藤篤彦氏(東京・武蔵野東第二)を選出し、議事に入りました。

●審議事項(1)平成28年度事業報告・収支決算承認の件については、各委員会委員長、プロジェク



文部科学大臣
松野博一・衆議院議員



全日本私立幼稚園
PTA連合会会長
河村建夫・衆議院議員



自由民主党
幼児教育議員連盟会長
中曽根弘文・参議院議員



自由民主党幼児教育
議員連盟事務局長
馳浩・衆議院議員



全日本私立幼稚園
PTA連合会副会長
遠藤利明・衆議院議員



全日本私立幼稚園
PTA連合会副会長
山本順三・参議院議員



自由民主党
参議院議員会長
橋本聖子・参議院議員



自由民主党幼児教育
議員連盟事務局長
山谷えり子・参議院議員

ト座長から事業報告がありました。続いて、田中辰実総務委員長から収支決算について説明が行われ、伊藤夏夫監事から厳正かつ正確に処理されている旨の監査報告があり、拍手多数で承認されました。

●審議事項(2)平成29年度事業計画案・収支予算案承認の件については、田中辰実総務委員長から

事業計画の趣旨説明があり、続いて各委員会委員長、プロジェクト座長から事業計画案の説明を行いました。次に、田中総務委員長が収支予算案を説明しました。原案が拍手多数で承認されました。

●報告事項 (公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構からの報告として、田中雅道理事長より、私学会館別館1階に、(公財) 全日私幼研究機構の新しい事務所を開設し、免許更新等の事務手続きなどの業務を行うこと、PTA しんぶん1面の掲載記事について、公開保育を活用した幼児教育の質向上システム (ECEQ) の概要リーフレットの配布について報告がありました。

最後に北條泰雅副会長の閉会のことばで終了しま



した。

(調査広報編集委員・波岡伸郎)

●5.9理事会

平成28年度事業報告・収支決算を議決

5月9日(火) 東京・私学会館にて全日私幼連理事会が開催され、理事59名が出席しました。村山十五副会長の開会のことばの後、香川敬会長のあいさつが述べられました。その後、議長に内野光裕氏(東京)と上田雅裕氏(富山)、議事録署名人に奈良誉夫氏(滋賀)と米川晃氏(広島)を選出しました。

行政報告として文部科学省高等教育局私学部私学助成課長の淵上孝氏より私立高等学校等経常費助成費補助金幼稚園分の概要について報告がありました。

審議案件(1)各委員会委員長等より平成28年度事業報告の説明がありました。(2)平成28年度収支決算を田中辰実総務委員長、会務監査報告を伊藤夏夫監事から報告があり全会一致で定時総会へ上程されました。

続く報告案件では、各委員会委員長等より会務運営報告がありました。

次に(独法)国立青少年教育振興機構鈴木みゆき理事長より幼稚園・保育園等の指導者向けプログラムの提案等について説明があり、続いて(公財)全日私幼研究機構田中雅道理事長よりECEQ(公開保育を活用した幼児教育の質向上システム)の普及



に向けた取組みについて報告がありました。

その他田中総務委員長より定時総会(5/24)、坪井政策委員長より全日本私立幼稚園PTA連合会委員総会(7/11)の報告がありました。最後に小澤俊通副会長より閉会のことばが述べられ、終了しました。

☆新しい団体長 (平成29年6月5日現在)

群馬県=権頭俊澄・ポケット

三重県=二井 睦・和順

京都府=川名マミ・菊の花

*氏名・園名/敬称略

= 総務委員会 =

委員長＝田中辰実、副委員長＝安西透、宮崎史郷、委員＝近藤宏、須田正明、滝田昌孝、知久賢治、篠田佳幸、大西建太郎、佐藤康広、朝野卓也、委員会＝4回

平成 28 年度は、①各種会議の運営を図り、会務運営の協議を行った。また正副会長・委員長会を開催し、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構および各委員会の活動状況報告ならびに情報交換を行った。②予算・決算および会計その他財務全般に関する会務執行状況の確認を行った。③会務執行上、一般会計予算・特別会計予算の補正を行った。④JK保険の内容を検討し、加入促進に努めた。⑤こどもがまんなかPROJECTの協力金活動を行った。⑥永年勤続者表彰事業を行った。⑦熊本地震に対する義捐金活動を行った。⑧幼児教育振興法の制定に向けた特別会計の執行状況についての確認を行った。全日私幼連の諸活動の財源である一般会費は年度内に完納していただきましたことにお礼申しあげ、ご報告申しあげます。

【具体的活動内容】

1. 会議の開催／(1)定時総会：平成 28 年 5 月 24 日東京・私学会館（出席者 145 人）(2)理事会：平成 28 年 5 月 10 日東京・グランドヒル市ヶ谷（出席者 49 人）9 月 21 日東京・私学会館緊急（出席者 58 人）12 月 13 日東京・私学会館合同（出席者 60 人）平成 29 年 1 月 31 日東京・私学会館合同（出席者 65 人）3 月 14 日東京・私学会館合同（出席者 50 人）(3)常任理事会：平成 28 年 4 月 26 日東京・私学会館（出席者 34 人）6 月 10 日東京・私学会館（出席者 29 人）9 月 6 日東京・私学会館（出席者 31 人）11 月 11 日東京・私学会館（出席者 23 人）平成 29 年 2 月 17 日東京・私学会館（出席者 25 人）(4)団体長会：平成 28 年 9 月 21 日東京・私学会館緊急（出席者 45 人）12 月 13 日東京・私学会館合同（出席者 44 人）平成 29 年 1 月 31 日東京・私学会館合同（出席者 46 人）3 月 14 日東京・私学会館合同（出席者 40 人）(5)監査会：平成 28 年 4 月 19 日東京・全日私幼連事務局（出席

者 7 人）10 月 26 日東京・全日私幼連事務局（出席者 6 人）(6)地区会長会：平成 28 年 5 月 9 日東京・私学会館（出席者 17 人）(7)組織改革検討会：平成 28 年 9 月 5 日東京・私学会館（出席者 22 人）10 月 6 日東京・私学会館（出席者 17 人）11 月 22 日東京・私学会館（出席者 16 人）平成 29 年 1 月 17 日東京・私学会館（出席者 20 人）(8)幼児教育振興法案の早期制定を求める緊急集会：平成 28 年 9 月 21 日東京・私学会館（出席者 57 人）

2. 関係団体との連絡／(1)内閣府：男女共同参画推進連携会議：議員・香川敬、子ども・子育て会議・基準検討部会：委員・坪井久也、(2)文部科学省：私学共済年金研究会：協力者・村山十五、中央教育審議会初等中等教育分科会：臨時委員・北條泰雅、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会：臨時委員・北條泰雅、特別支援教育ネットワーク推進委員会：委員・安家周一、教員資格認定試験：委員・安家周一、(3)厚生労働省：児童虐待防止対策協議会：委員・香川敬、(4)日本私立学校振興・共済事業団：共済運営委員会：委員・村山十五、共済年金制度研究委員会：委員・村山十五、(5)私学研修福祉会：理事・村山十五、評議員・尾上正史、(6)全私学連合代表者会議：委員・香川敬、北條泰雅、村山十五、尾上正史、(7)全国私立学校審議会連合会：副会長・友松浩志、(8)日本ユニセフ協会：顧問・香川敬、(9)O M E P 日本委員会：理事・香川敬、(10)日本防火・防災協会：評議員・尾上正史、(11)日本スポーツ振興センター学校安全推進会議：委員・村山十五、(12)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会：顧問・香川敬

3. 役職員出張／各地区の研修会や地区会・都道府県団体に役職員が出張した。

4. 表彰事業／永年勤続表彰：50 年以上の設置者・園長 18 人、教職員 10 人。40 年以上の設置者・園長 42 人、教職員 37 人、30 年以上の設置者・園長 39 人、教職員 119 人。20 年以上の設置者・園長 60 人、教職員 364 人。

5. 全日私幼連要覧の作製／2017 年版の要覧 (Vol.30) を作成し、全日私幼連ホームページに掲載した。

6. 保険・福利厚生に関する事項／全日私幼連保険制度の理解を深め、その充実と加入促進を図り実績をあげた。

7. 推薦、協力、後援／推薦：①平成 28 年度版・たのしいなつ（チャイルド本社）②平成 28 年度版・なつのおともだち（フレーベル館）③映画「それいけ！アンパンマン おもちゃの星とナンダとルンダ」（フレーベル館）／協力：平成 29 年度第 71 回児童福祉週間（厚生労働省）／後援：①平成 28 年度こども環境管理士資格試験（日本生態系協会）②第 11 回子ども身体運動発達指導士養成講習会（日本スポーツクラブ協会）③平成 27 年度就職説明会（全千葉県私立幼稚園連合会）④第 37 回全国歯科保健大会（厚生労働省）⑤第 11 回香川県私学振興大会（香川県私立中学高等学校保護者会）⑥平成 28 年度高知県私立幼稚園 P T A 大会（高知県私立幼稚園 P T A 連合会）⑦子どもの虐待防止推進全国フォーラム（厚生労働省）⑧ユネスコスクール全国活動（文部科学省）⑨全国子ども会育成中央会議・研究大会（全国子ども会連合会）⑩第 65 回全国幼児教育研究大会（全国幼児教育研究協会）⑪世界自閉症啓発デー・シンポジウム（日本自閉症協会）⑫第 14 回おやじ日本全国大会（認定特定非営利活動法人おやじ日本）⑬第 10 回ビルメンこども絵画コンクール（全国ビルメンメンテナンス協会）⑭第 49 回全国情緒障害教育研究協議会徳島大会（全国情緒障害教育

研究会）⑮平成 29 年度の活動について（ダンス教育振興連盟 J D A C）⑯第 12 回長崎県私学振興大会（長崎県私立中学高等協会）⑰フードシステムソリューション 2016（フードシステムソリューション実行委員会）⑱全国学校・園庭ビオトープコンクール 2017（日本生態系協会）⑲第 49 回手紙作文コンクール、全日本年賀状コンクール（日本郵便株式会社）⑳日本乳幼児教育学会大会（日本乳幼児教育学会）㉑子育てフォーラム in とくしま（徳島県私立幼稚園協会）㉒第 22 回日本保育保健学会（日本保育保健学会）㉓日本子ども虐待防止学会第 23 回学術集会（日本子ども虐待防止学会学術集会）／協賛：①平成 29 年春・秋の全国交通安全運動（内閣府）②平成 29 年度「道路ふれあい月間」（国土交通省）

= 政策委員会 =

委員長＝坪井久也、副委員長＝石田明義、北川定行、委員＝佐藤三幹、秋元信行、鈴木教義、福井徹人、石井和則、松原直俊、小林直樹、山崎拓史、大矢野隆嗣、委員会＝3 回

【具体的活動内容】

政府予算については、正副会長、政策委員会が一丸となって取り組んだ結果、私立高等学校等経常費助成費補助（幼稚園分）が 1 人当たり単価 23,453 円（0.9%増）、地方交付税分を合わせ園児 1 人当



新しいものを見るたび、触れるたび、
目覚ましく成長する子どもたち。
子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。
育む環境で、子どもたちの明日は変わる。
だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。
好奇心や想像力、勇気や感動。
そして、子ども同士の関わり合い。
子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、
最適な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



全日私幼連 平成 28 年度事業報告

たり単価 182,453 円 (+ 1.2%増) となった。また新たに平成 29 年度文部科学省予算において、私学助成園の人材確保のための賃金改善の予算枠を確保することができた。

幼稚園就園奨励費補助については、年収 360 万円未満の世帯の第 1 子、第 2 子の負担軽減、ひとり親世帯の負担軽減を進め「幼児教育の無償化」に向けて一步前進した。

子ども・子育て支援新制度は平成 27 年 4 月のスタートから 2 年が経過し、私立幼稚園からの移行が徐々に進み、平成 29 年 4 月時点で約 37%の移行率と予想されている。

本連合会としては、国の子ども・子育て会議等において、新制度の公定価格の加算の見直しや、人員配置などの問題点を指摘しつつ、市区町村における運用面の不適切な事例の改善を求めてきた。

当委員会は私学助成園と新制度園との間の税制上の不公平の是正策の検討、すべての私立幼稚園等の教職員の処遇改善策等について検討を行い、国に対して改善を求めた。さらに、幼児教育全体を国の優先施策と位置づける「幼児教育振興法」が平成 28 年度通常国会に上程されたが継続審議となっており、引き続き早期成立を求め、自民党文部科学部会幼児教育小委員会、幼児教育議員連盟とも連携して活動を行った。

研修については、設置者・園長全国研修大会（10 月）の研究講座担当の他、都道府県政策担当者会議（10 月）を開催し、新制度の問題点の検討、私立幼稚園の現在、将来の課題について検討を行った。

＝ 教育研究委員会 ＝

委員長＝宮下友美恵、副委員長＝加藤篤彦、川原恒太郎、委員＝藪淳一、小野寺靖子、高倉幸世、佐藤緑郎、西片紀美子、磯野おわ、濱名浩、水原紫乃、岡本和貴、淵和子、吉井健、専門委員＝岡本潤子、亀ヶ谷忠宏、安達讓、黒田秀樹、協力委員＝秦賢志、委員会＝ 8 回

【具体的活動内容】

教育研究委員会の事業は、(公財) 全日本私立幼

稚園幼児教育研究機構・研究研修委員会において実施しているため、(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成 28 年度事業報告書に記載。

＝ 経営研究委員会 ＝

委員長＝尾上正史、副委員長＝堀江眞嗣、水谷秀史、委員＝今西界雄、飯塚拓也、遠藤英昌、鮎川剛、池田清、藤井宣昭、森一男、溝口栄仙、委員会＝ 4 回

【具体的活動内容】

1. 第 32 回設置者・園長全国研修大会の企画および実施／平成 28 年 10 月 17 日 (月)・18 日 (火) の 2 日間、一般社団法人石川県私立幼稚園協会の協力のもと、金沢市・ANA クラウンプラザホテル金沢を会場にて開催。全国各地から 514 人の設置者・園長が参加。大会初日は開会式に引き続き記念講演が行われ、パネラー：福島武山氏 (九谷赤絵作家)、四代 徳田八十吉氏 (九谷焼作家)、進行：田中辰実氏 (一般社団法人石川県私立幼稚園協会理事長) から『不易流行 つなぐこと、変わること』と題して講演を行った。「行政報告」では、講師：伊藤学司氏 (文部科学省初等中等教育局幼児教育課長) が行政報告を行い、その後、淵上孝氏 (文部科学省高等教育局私学部私学助成課長) を交えてパネルディスカッションを行った。次に、「震災報告」を大矢野隆嗣氏 (一般社団法人熊本県私立幼稚園連合会副理事長) より行った。その後、こどもがまんなか P R O J E C T より活動報告を行った。翌日 18 日は、「研究講座 1 (教育)」第一部、基調講演 講師：湯川秀樹 (文部科学省初等中等教育局視学官)。第二部、パネルディスカッション パネリスト：東重満氏 ((公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構縦断研究チーム)、箕輪潤子氏 (川村学園女子大学教育学部幼児教育学科准教授)、加藤篤彦氏 ((公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修副委員長)、コーディネーター：宮下友美恵氏 ((公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修委員長)。「研究講座 2 (振興)」パネルディスカッション パネリスト：伊藤学司氏 (文部科学省初等中等教育局

幼児教育課長)、小澤俊通氏(全日本私立幼稚園連
 合会副会長)、石田明義氏(全日本私立幼稚園連
 合会政策委員)、福田徹人氏(全日本私立幼稚園連
 合会政策委員)、コーディネーター:坪井久也氏(全
 日本私立幼稚園連合会政策委員長)。「研究講座3(経
 営)」講師:脇貴志氏(株式会社アイギス代表取締
 役) 情報提供者:堀江眞嗣氏(全日本私立幼稚園
 連合会経営研究副委員長)、水谷秀史(全日本私立
 幼稚園連合会経営研究副委員長)。「研究講座4(認
 定こども園)」パネルディスカッション パネリス
 ト:三谷卓也氏(内閣府子ども・子育て本部参事官
 (認定こども園担当))、濱川喜巨氏(全日本私立幼
 稚園連合会認定こども園副委員長)、森迫建博氏(全
 日本私立幼稚園連合会認定こども園副委員長)、コー
 ディネーター:橋本幸雄氏(全日本私立幼稚園連
 合会認定こども園委員長)。以上、4講座を実施した。
 2. 平成28年度(第28回)私立幼稚園経営実態
 調査の実施と報告/全日私幼連加盟園の7,590園
 に実施調査票を配布し、3,960園(回収率52.2%)
 から回答を得た。調査結果をもとに、保育料等の分
 析を行い、報告を全日私幼連ホームページならびに
 全日私幼連要覧2017にて行った。なお、本年度
 は特別支援児数、預かり保育、借入金、子ども・子
 育て支援新制度等に関する調査も実施し結果を掲載
 した。
 3. 子ども・子育て支援新制度への対応/設置者・

園長全国研修大会の研究講座にて、私学助成園及び
 子ども・子育て支援新制度園に共通した問題である、
 園運営にかかる危機管理をテーマに具体例などを交
 えながら行った。

4. 幼児教育振興法(仮称)の早期制定に向けた活
 動に関する事項/幼児教育振興法の根幹である質の
 高い幼児教育を実施できるよう、設置者・園長全国
 研修大会の研究講座を行った。

5. 幼稚園教育を中心とする幼児教育の無償化への
 対応/委員会と連携して対応を行い、次年度も継続
 して対応していく。

6. 後継者育成研修会の開催/2月20日(月)東京・
 ホテルグランドヒル市ヶ谷にて、若手を育成し次世
 代の後継者を養成することを目的とした、『後継者
 研修会』を開催し全国から147名が参加。開会の
 後に、講演Iを田中雅道氏・全日本私立幼稚園連
 合会副会長より『今後の全日私幼連のあり方について』
 と題して講演。次に、行政報告を伊藤学司氏・文部
 科学省初等中等教育局幼児教育課長より『幼児教育
 をめぐる情勢と今後の課題』と題して行った。次に
 講演IIを石田敦志氏より『新制度施行により求めら
 れる幼稚園の本質』と題して行った。続いて、各グ
 ループに分かれてワークショップを行い、「園の求
 められる姿、あるいはそのプロセス」と題して、参
 加者と一緒にその問題について話し合い、アドバイ
 ス等を募りながら活発な意見交換を行った。

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

積極的に研修に参加し、その履歴を
 研修ハンドブックに記録しておきましょう。

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

新版 研修ハンドブック

4103501 **756円** (本体700円)

- B6判
- 120ページ
- ビニールカバー入り

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー事業本部
 TEL03-3262-5128



7. 人材確保に関する事項／平成 29 年度幼児教育関係予算にある、『幼児教育の質の向上』に示されている“幼稚園の人材確保支援事業”を活用して作成する、求人サイト（アプリ）について議論を行った。次年度では、実際にアプリを作成し、運用していく。

8. 税制に関する事項／他委員会と連携して対応を行い、次年度も継続して対応していく。

9. 学校法人会計基準の変更について／学校法人会計基準の変更に伴って、主な改正点のポイントや注意事項ならびに幼稚園における改正の影響について、諸会議等について資料提供を行い、周知した。

10. その他、経営に関する事案に適宜対応する／全日私幼連に加盟する園（以下 加盟園）における全ての教職員が、火災、災害、事故、事件などのあらゆる危機（保護者対応・マスコミ対応）に対し、的確かつ迅速に対応又は予防するために必要な事項を定めて、園児・保護者・教職員の生命及び健康を守ることを目的とし、社会や保護者に対し安心して選ばれる園となるよう、経営防衛マニュアル案（管理・対応）作成を議論した。次年度では、冊子を作成し報告できるようにする。

= 広報委員会 =

委員長＝四ツ釜雅彦、副委員長＝野上秀子、高尾恵

子、委員＝宮澤公大、武藤ちよ子、源恭子、奈良誉夫、光岡美恵子、檜村文夫、編集委員＝前田幹、波岡伸郎、委員会＝5回

【具体的活動内容】

広報委員会の事業は、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構・調査広報委員会において実施しているため、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の平成 28 年度事業報告書に記載。

= 102 条園委員会 =

委員長＝溝淵真澄、副委員長＝田中圭子、委員＝小山嘉治、福田博多、中尾賢治、永田真理、矢木一美、和田誠、谷成悟、委員会＝4回

102 条園委員会の年間事業計画にもとづき、現状の諸問題解決のため委員会等で検討協議を重ねた。また、研修会等を通して情報交換を行い、年間委員会活動のあり方を模索した。

【具体的活動内容】

1. 平成 28 年度・都道府県 102 条園研究会議の企画・実施／都道府県団体の 102 条園代表者を含めた 90 人が集まり、平成 28 年 9 月 26 日（月）東京・私学会館で開催した。「子ども・子育て支援新制度に係る相続税非課税制度及び加算項目について」と題して、竹林経治氏・内閣府子ども・子育て本部参事官が講演。次に、参加者より事前に集めた

ひろみちお兄さんの からだあそび

佐藤弘道 著

からだがつくられる幼児期には、全身の運動能力をバランスよく身につけることが大事。筋力・瞬発力・柔軟性・平衡性など、身につけた運動能力ごとにあそびを紹介していきます。補助のしかたや安全のポイントなど、役立つアドバイスもいっぱい、からだあそびの決定版！

じわじわ
どっか〜ん！
体力アップ

楽しく
バランス！
調整力アップ

親子体操

定価 1,944円（税込）
26×21cm／96ページ
発行・発売 チャイルド本社

好評発売中！



質問等を内閣府の方にご回答いただき情報交換を行った。また、各地域からの現状報告を102条園委員や参加者から行い、意見交換を行った。

2. 平成28年度・102条園研修会の企画・実施／私立幼稚園を取り巻く状況の変化に対応するため、平成29年2月13日(月)東京・私学会館で開催し、都道府県団体から75人の先生方が参加した。「教育用財産の相続税非課税制度、施設型給付の財務計算書類と加算項目、今後の選択肢と幼稚園団体の活動について」と題して、柏谷道正氏・公認会計士・税理士、白井健二郎氏(公認会計士・税理士)が講演し、その後、質疑応答を行い、子ども・子育て支援新制度について意見交換を行った。

3. 平成28年分・青色申告決算の手引書等の作成／平成28年分も昨年と同様に、「青色申告の決算の手引き」の紙媒体での配布を止め、全日私幼連のホームページに掲載し、青色申告決算の手引書等をダウンロードして活用してもらうようにした。

＝ 認定こども園委員会 ＝

委員長＝橋本幸雄、副委員長＝濱川喜亘、森迫建博、委員＝岸豊、富川将、栗原充常、長岡龍男、安本照正、専門委員＝角谷正雄、小島聖、委員会＝3回

平成28年度は、①認定こども園の各地区の現状報告、意見交換の実施②第32回設置者・園長全国

研修大会(石川県・金沢市)研究講座の企画・実施③認定こども園アンケートの企画・実施④認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会の企画・実施。

【具体的活動内容】

1. 認定こども園の各地区の現状報告、意見交換の実施／各地区における認定こども園の現状報告や今後の展望についての意見交換、研修会講師として新制度の説明を行った。

2. 第32回設置者・園長全国研修大会(石川県・金沢市)における研究講座の企画・実施／「認定こども園制度の充実に向けて」と題して、認定こども園の今後について研究講座を企画し、実施した。

3. 認定こども園アンケートの企画・実施／子ども・子育て支援新制度施行後1年の段階で、加盟園の決算の状況について現状を把握すべく5月～6月にアンケートを実施した。

4. 認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会の企画・実施／平成28年9月30日(金)、東京・アルカディア市ヶ谷私学会館にて「幼稚園ならではの認定こども園を目指して」をテーマに内閣府・文部科学省の担当官臨席のもと研修会を行った。研修内容は「認定こども園を取り巻く現状について」文部科学省初等中等教育局幼児教育課幼児教育企画官・成松英範氏、「幼児教育・保育の現状を考える」東京大学大学院教育学研究科教授・秋田喜代美氏、

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。



らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
キャラクター
ロゴ

Flashで
動画！

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

「たちばな幼稚園の保育 - 乳児を中心に -」認定子ども園 たちばな幼稚園・邨橋雅広氏、パネルディスカッション「認定子ども園における公定価格の課題整理について」指吸会計センター株式会社仙台支店長・田尻文彦氏、認定子ども園委員会副委員長・森迫建博氏、認定子ども園委員会委員・安本照正氏、認定子ども園委員会委員長・橋本幸雄氏が行った。

＝政令指定都市特別委員会＝

委員長＝柿迫重正、副委員長＝國府谷俊盛、委員＝前田元照、志賀文岳、勝田寿郎、木元茂、鈴木伸司、植村義弘、水谷豊三、村上順滋、委員会＝2回

【具体的活動内容】

1. 政令指定都市特別委員会研修会の企画・実施／平成 28 年 11 月 7 日(月)、東京ガーデンパレスにおいて、約 120 名の参加を得て、行政報告「子ども・子育て支援新制度の現状」(文部科学省初等中等教育局幼児教育企画官)、講座 1「大規模園を想定した新制度会計シミュレーション」(ゆびすい会計センター講師)、講座 2「地方行政における新制度への取組と今後の見通し(政令指定都市の事例)」(神戸市子ども家庭局行政官)、講座 3「鼎談：区行政との良好な関係性について」(神戸市須磨区行政官、神戸市認定子ども園園長、政令指定都市特別委員会委員)などの講演・意見交換を行った。
2. 政令指定都市および中核市の私立幼稚園、認定子ども園の抱える課題の調査・研究を行った。／3. 他委員会等が実施する事業に連携・協力を行った。

＝こどもがまんなかPROJECT企画推進会議＝

平成 28 年度、「こどもの権利」「国際貢献」「母親とこどもの健康」「日本文化・地域文化の継承」「こどもがまんなか生活」「共生」の 6 つの柱を掲げ、現代の子どもたちをめぐる社会環境を考慮しつつ、今後の国の子育て支援策などを踏まえ活動を展開した。また、プロジェクト活動に対して全国より 3,584,412 円をご協力いただきましたことにお礼申しあげ、ご報告いたします。

【具体的活動内容】

1. プロジェクト企画推進事業／(1)こどもの権利：小冊子「22 世紀の日本が輝き続けるために～幼児教育をもっと豊かに～」、「読み方からおススメまで 絵本ガイド」を企画・発行した。また、「知っていますか？生活の中の子ども権利(子どもの権利条約)」の普及に努めた。(2)共生／平成 29 年 2 月 2 日(木)、熊本県熊本市で「こどもがまんなかファミリーコンサート～熊本地震復興への願いを込めて～」を開催し、約 1,000 人の参加を得た。(3)こどもがまんなか PROJECT アワードを創設し、12 団体(園)の応募があった。最優秀園等の発表は平成 29 年度中を予定している。
2. プロジェクト普及啓発事業／(1)全日本私立幼稚園 P T A 連合会の第 31 回 P T A 全国大会(平成 28 年 6 月 13 日、ホテルニューオータニ東京)で活動の一環として「こどもがまんなか PROJECT ～クラシックコンサート～」を開催し、活動趣旨や内容を紹介した。



バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！

くるんとバス

—通園バス位置情報システム—

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットの GPS 機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。

株式会社 **チャイルド社** インターネット課
TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

いつもNAVI
「いつもNAVI 動態管理サービス for 送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社ゼンリンデータコム登録商標です。

一般会計収支計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：円)

科目	予算額A	決算額B	(A-B)	備考
①事業活動収入の部				
1 基本財産運用収入	15,000	15,613	△ 613	
基本財産運用収入	15,000	15,613	△ 613	基本積立金・大河内・由田利息
2 特定資産運用収入	30,000	31,559	△ 1,559	
特定資産運用収入	30,000	31,559	△ 1,559	国際交流・財政運用・退職給付利息・災害積立利息
3 受取会費収入	175,000,000	175,875,130	△ 875,130	
一般会費	175,000,000	175,875,130	△ 875,130	(会費1園12,000円+園児70円×加盟園数)加盟園数
4 事業収入	20,000,000	20,125,158	△ 125,158	
研修会費	12,000,000	12,144,000	△ 144,000	研修会参加費等
保険事務手数料	8,000,000	7,981,158	△ 18,842	JA保険
5 受取補助金等収入	45,000,000	57,375,000	△ 12,375,000	
団体研究助成金	45,000,000	57,375,000	△ 12,375,000	私学研修福祉会
6 受取寄付金収入	6,000,000	6,000,000	0	
寄付金収入	6,000,000	6,000,000	0	JA保険広告料
7 雑収入	830,000	797,933	△ 32,067	
受取利息	30,000	2,463	27,537	預金利息
その他	800,000	795,470	4,530	推薦料・冊子販売等
8 他会計からの繰入収入	5,000,000	5,000,000	0	
9 財政運用積立預金取崩収入	0	0	0	
10 退職給付引当預金取崩収入	500,000	0	△ 500,000	
11 災害積立預金取崩収入	6,500,000	3,890,000	△ 2,610,000	
事業活動収入計	258,875,000	269,110,393	△ 10,235,393	
②事業活動支出の部				
1 事業費支出	185,300,000	178,359,056	△ 6,940,944	
①総務関係事業	(77,350,000)	(76,263,552)	(1,086,448)	
総会	6,700,000	6,650,301	49,699	会議費・旅費
理事会	9,000,000	8,901,265	98,735	会議費・旅費
常任理事会	7,000,000	6,603,132	396,868	会議費・旅費
団体会長会	2,500,000	2,354,147	145,853	会議費・旅費
監事会	350,000	328,140	21,860	会議費・旅費
総務委員会	2,300,000	2,304,597	△ 4,597	会議費・旅費
評会議費	11,700,000	11,779,028	△ 79,028	会議費・旅費
全私連	1,100,000	1,000,000	100,000	分担金・全私学連合
国際交流事業	250,000	234,880	15,120	分担金・会議費
全審連	250,000	230,000	20,000	分担金・全国私立学校審議会連合会
表彰事業	2,600,000	2,519,298	80,702	勲章表彰
出張費	2,000,000	1,993,080	6,920	旅費等
渉外費	1,500,000	1,523,118	△ 23,118	慶弔費等
要覧事業	1,500,000	1,468,466	31,534	作成費
地区活動事業	15,900,000	15,789,000	111,000	各地区に対する活動費
奨励事業	8,000,000	7,885,100	114,900	各都道府県に対する奨励金
組織強化費	4,700,000	4,700,000	0	各都道府県に対する奨励金
②政策関係事業	(56,100,000)	(55,896,257)	(203,743)	
政策委員会	2,300,000	2,191,120	108,880	会議費・旅費
都道府県政策担当者会議	3,000,000	3,015,137	△ 15,137	会場費・旅費
予算対策費	25,500,000	25,450,000	50,000	予算対策活動
政策推進費	25,300,000	25,240,000	60,000	政策推進活動
③教育研究関係事業	(100,000)	(73,500)	(26,500)	
教育研究委員会	100,000	73,500	26,500	会議費・旅費
④経営研究関係事業	(17,100,000)	(16,988,459)	(111,541)	
経営研究委員会	2,300,000	2,305,854	△ 5,854	会議費・旅費
設置者・園政研修会	11,800,000	11,706,481	93,519	会場費・旅費等
後継者育成研修会	1,000,000	969,595	30,405	会場費・旅費等
経営実態調査	2,000,000	1,946,529	53,471	調査費
⑤広報関係事業	(3,300,000)	(3,108,726)	(191,274)	
広報委員会	100,000	39,400	60,600	会議費・旅費
会報等発行事業	3,100,000	3,000,000	100,000	助成金・(公計) 全日私幼研究機構
インターネット事業	100,000	69,326	30,674	HIP管理
⑥102系関係事業	(2,300,000)	(1,845,043)	(454,957)	
102系関係委員会	1,300,000	930,182	369,818	会議費・旅費
都道府県代表者会議	1,000,000	914,861	85,139	会場費・旅費等
⑦認定こども園関係事業	(5,300,000)	(3,843,519)	(1,456,481)	
認定こども園委員会	2,300,000	1,862,533	437,467	会議費・旅費
認定こども園研修会	3,000,000	1,980,986	1,019,014	会場費・旅費等
⑧団体教育研究関係事業	(17,250,000)	(16,450,000)	(800,000)	
地区別教育研究会	16,800,000	16,000,000	800,000	助成金・(公計) 全日私幼研究機構
全日私幼連負担分	450,000	450,000	0	地区教研大会記念品
⑨災害費関係事業	(6,500,000)	(3,890,000)	(2,610,000)	
災害費	6,500,000	3,890,000	2,610,000	
2 管理費支出	37,600,000	35,097,098	△ 2,502,902	
給料	19,000,000	17,675,080	1,324,920	
退職金	500,000	0	500,000	
福利厚生費	2,700,000	2,765,988	△ 65,988	社会保険等
事務所費	2,000,000	1,998,571	1,429	共益費・水道光熱費等
印刷費	400,000	369,078	30,922	各種印刷費
消耗品費	1,800,000	1,700,607	99,393	消耗品費
賃借料	1,700,000	1,589,017	110,983	印刷機等リース代
通信費	1,400,000	1,389,079	10,921	各種通信費・発送費
交通費	500,000	355,515	144,485	都内交通費
租税公課費	2,000,000	1,919,573	80,427	法人税・消費税等
支払手数料	300,000	237,006	62,994	振込手数料等
備品費	250,000	210,384	39,616	PC
顧問料	5,000,000	4,829,560	170,440	弁護士・会計士・社労士
雑費	50,000	57,640	△ 7,640	
3 他会計への繰出支出	0	0	0	
他会計(こどもP)へ繰出支出	0	0	0	
4 特定預金繰入支出	34,500,000	47,282,320	△ 12,782,320	
財政運用積立預金繰入支出	33,200,000	46,375,000	△ 13,175,000	
退職給付引当預金繰入支出	800,000	407,320	392,680	
災害積立預金繰入支出	500,000	500,000	0	
5 予備費支出	1,475,000	0	△ 1,475,000	
事業活動支出計	258,875,000	260,738,474	△ 1,863,474	
当期収支差額	0	8,371,919	△ 8,371,919	
前期繰越収支差額	35,447,366	35,447,366	0	
次期繰越収支差額	35,447,366	43,819,285	△ 8,371,919	

※予算額は第一次補正予算額

収支計算書に対する注記

- 資金の範囲について
資金の範囲には現金預金、立替金、未収入金、未払金、預り金及び前受金を含めております。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するのとおりです。
- 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりであります。

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	35,997,459	44,333,999
立替金	0	0
未収入金	0	0
合計	35,997,459	44,333,999
未払金	0	0
預り金	550,093	514,714
前受金	0	0
合計	550,093	514,714
次期繰越収支差額	35,447,366	43,819,285

平成28年4月に発生した熊本地震の災害を受け、本連合会は本報告活動とは別に義捐金活動を行なった。

なお、受入及び振出については状況については次のとおりである。

	受入	振出
平成29年3月31日現在	151,954,241	151,954,241

坂本洋専務理事より、平成 28 年度の会計資料に基づき説明があり、定款第 8 条第 1 項第 3 号から第 6 号までの規定に基づき一同に諮り、満場一致で決議されました。

【報告案件】

第 12 回理事会にて決議された右記の内容について報告がありました。

- 1、平成 28 年度事業報告の件
- 2、賛助会員入会の件
- 3、評議員選定委員会の選任の件
- 4、ECEQ、ECEQ コーディネーターの件
- 5、第 8 回幼児教育実践学会の件
- 6、賛助会員数等一覧の件

((公財) 全日私幼研究機構専務理事・坂本洋)

(公財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 平成 28 年度事業報告

◇平成 28 年度会合等の概要

(1)理事会：平成 28 年 5 月 10 日第 9 回理事会 (15 人出席)〔東京・私学会館〕5 月 24 日第 10 回理事会 (14 人出席)〔東京・私学会館〕平成 29 年 3 月 21 日第 11 回理事会 (13 人出席)〔東京・私学会館〕、(2)評議員会：平成 28 年 5 月 24 日第 7 回評議員会 (17 人出席)〔東京・私学会館〕平成 29 年 3 月 21 日第 8 回評議員会 (9 人出席)〔東京・私学会館〕、(3)監査会：平成 28 年 4 月 22 日監査会 (4 人出席)〔東京・全日私幼研究機構会議室〕10 月 28 日監査会 (5 人出席)〔東京・全日私幼研究機構会議室〕

◇委員会活動等一覧

4 月 18 日幼児教育実践学会打合会東京・東京家政大学 4 月 22 日監査会東京・全日私幼研究機構会議室 5 月 10 日第 9 回理事会東京・私学会館 5 月 24 日第 7 回評議員会東京・私学会館第 10 回理事会東京・私学会館 5 月 31 日打合会東京・私学会館 6 月 2 日研究研修委員会東京・私学会館 6 月 3 日公開保育コーディネーター養成講座東京・砂防会館 6 月 27 日研究研修委員会東京・私学会館 7 月 4 日研究研修委員会正副理事長・正副委員長会東京・全日私幼研究機構会議室 7 月 7 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構会議室 7 月 11 日幼児教育実践学会打合会東京・東京家政大学 7 月 16 日免許状更新講習東京・全国町村会館 7 月 17 日免許状更新講習東京・全国町村会館 8 月 17 日研究研修委員会東京・東京家政大学研究研修委員会正副理事長・

正副委員長会東京・東京家政大学 8 月 18 日公開保育コーディネーターフォローアップ研修会東京・東京家政大学第 7 回幼児教育実践学会東京・東京家政大学 8 月 19 日第 7 回幼児教育実践学会東京・東京家政大学 9 月 6 日園長・リーダー研修会小委員会福岡・福岡ガーデンパレス 9 月 8 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構会議室 9 月 12 日研究研修委員会東京・私学会館公開保育コーディネーター養成小委員会東京・私学会館 3 歳未満児プロジェクト小委員会東京・私学会館 9 月 13 日砂場研究打合会東京・全日私幼研究機構会議室 9 月 27 日園長・リーダー研修会小委員会東京・私学会館 9 月 30 日評価者育成小委員会東京・全日私幼研究機構会議室 10 月 24 日 PTA しんぶん小委員会東京・全日私幼研究機構会議室ホームページ小委員会東京・全日私幼研究機構会議室 10 月 26 日公開保育コーディネーター養成小委員会東京・全日私幼研究機構会議室 11 月 15 日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構会議室 11 月 18 日研究研修委員会東京・私学会館評価者育成・公開保育コーディネーター養成小委員会合同会議東京・私学会館 3 歳未満児プロジェクト小委員会東京・全日私幼研究機構会議室 11 月 25 日園長・リーダー研修会東京・東京大学 11 月 26 日園長・リーダー研修会東京・武蔵野大学 11 月 27 日園長・リーダー研修会東京・武蔵野大学 11 月 30 日監査会東京・私学会館 12 月 5 日 PTA しんぶん小委員会東京・全日私幼研究機構会議室 12 月 12 日事前打合会東京・全日私幼研究機構会議室 12 月 13 日(公財)全日私幼研究機構報

告会東京・私学会館 12月22日幼児教育実践学会
小委員会北海道・共済ホール／札幌大谷大学 12月
24日免許状更新講習東京・私学会館 12月25日
免許状更新講習東京・私学会館 12月26日評価者
育成研修会東京・私学会館平成29年1月13日
ホームページ小委員会東京・私学会館 1月18日研
究研修委員会京都・京都ガーデンパレス公開保育
コーディネーター養成小委員会京都・京都ガーデン
パレス 1月19日全国研究研修担当者会議京都・京
都ガーデンパレス評価者育成・公開保育コディ
ネーター養成小委員会合同会議京都・京都ガーデン
パレス3歳未満児プロジェクト小委員会京都・京都
ガーデンパレス 1月20日全国研究研修担当者会議
京都・京都ガーデンパレス 1月25日PTAしんぶん
小委員会東京・全日私幼研究機構会議室／調査広
報委員会東京・全日私幼研究機構会議室 2月8日
研究研修委員会東京・私学会館 2月15日公開保育
コーディネーター養成講座東京・私学会館3歳未満
児プロジェクト小委員会東京・全日私幼研究機構会
議室 2月20日公開保育コーディネーターフォロー
アップ研修会東京・私学会館公開保育コディネ
ーター養成小委員会東京・全日私幼研究機構会議室
2月24日ホームページ小委員会東京・私学会館 1月
21日PTAしんぶん小委員会東京・全日私幼研究
機構会議室 3月10日砂場研究打合会東京・全日私
幼研究機構会議室 3月12日公開シンポジウム東京・

東京大学 3月13日研究研修委員会3歳未満児プロ
ジェクト小委員会東京・私学会館東京・私学会館 3
月21日調査広報委員会東京・全日私幼研究機構会
議室 3月21日第11回理事会東京・私学会館 3月
21日第8回評議員会東京・私学会館

1、幼児教育にかかわる者の資質向上に関する事業

(1)平成28・29年度「教育研究課題」ならびに研
修俯瞰図の周知

平成28・29年度「教育研究課題」ならびに「保
育者としての資質向上研修俯瞰図」の内容について
周知した。

(2)幼稚園・認定こども園における学校評価の充実
に向けた事業の企画・検討

昨年度に引き続き、文部科学省委託事業「平成
28年度 幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」
について企画・検討を行い、公開保育を実施し、外
部の視点を導入することで自園の良さや課題を見つ
ける支援者を養成すべく「公開保育コーディネ
ーター養成講座」を企画実施した。

今年度の受講者は全国から約49名。事前講義と
して平成28年6月3日に東京・砂防会館におい
て岡健大妻女子大学教授による講義を行った。公開
保育、保育後振り返り、ワークショップについては
各地区で取り組み、平成29年2月15日に東京都
千代田区において養成講座を開催し全課程を終了し

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

た。

また、平成 25 年度～平成 27 年度の受講者を対象として、フォローアップ研修を企画した。平成 28 年 8 月 18 日、東京・東京家政大学において、平成 29 年 2 月 20 日、東京・私学会館において開催し、コーディネーターとしての質の担保と更なるスキルアップを図った。

北海道地区＝〔公開保育〕10月28日（北海道・ふしこ幼稚園）、〔ワ-クショップ〕11月11日（北海道・ふしこ幼稚園）東北地区＝〔公開保育〕8月19日（福島県・福島わかば幼稚園）、〔ワ-クショップ〕8月20日（福島県・福島県文化センター）関東地区＝〔公開保育〕8月24日（埼玉県・大成幼稚園）、〔ワ-クショップ〕9月30日（埼玉県・大成幼稚園）神奈川地区＝〔公開保育〕11月5日（神奈川県・鴨居幼稚園）、〔ワ-クショップ〕11月8日（神奈川県・鴨居幼稚園）東京地区＝〔公開保育〕12月3日（東京都・鶯谷さくら幼稚園）、〔ワ-クショップ〕12月20日（東京都・鶯谷さくら幼稚園）東海北陸地区＝〔公開保育〕10月21日（富山県・堀川幼稚園）、〔ワ-クショップ〕11月5日（富山県・堀川幼稚園）近畿・大阪地区＝〔公開保育〕7月29日（和歌山・名草幼稚園）、〔ワ-クショップ〕8月19日（和歌山・名草幼稚園）中国地区＝〔公開保育〕8月23日（山口県・深川幼稚園／真珠幼稚園）、〔ワ-クショップ〕11月8日（山口県・山口県私立幼稚園協会）四国地区＝〔公開保育〕平成 29 年 1 月 25 日（山口県・恩田幼稚園）、〔ワ-クショップ〕1月25日（山口県・恩田幼稚園）九州地区＝〔公開保育〕平成 29 年 1 月 21 日（佐賀県・にじのはねこども園）、〔ワ-クショップ〕平成 29 年 2 月 27 日（佐賀県・にじのはねこども園）

(3)免許状更新講習等についての企画・検討

- ・文部科学大臣の認定を受け、平成 28 年度は全国で、133 講習（必修 24 講習、選択必修 24 講習、選択 85 講習）を実施。延べ人数 12,719 人が受講した。
- ・本財団独自事業として、7 月 16 日・17 日、12 月 24・25 日の 2 回、東京都千代田区において免許状更新講習必修講習および選択必修講習を開催した。

- ・教育職員免許法施行規則等の一部改正により平成 28 年 4 月より新たに追加された「選択必修領域」について、カリキュラムの検討を行い都道府県ならびに受講者への周知を行った。

(4)「幼児教育実践学会」の実施

「第 7 回幼児教育実践学会」を平成 28 年 8 月 18 日・19 日に東京都板橋区・東京家政大学において開催。全国から約 500 名の参加を得た。基調講演は、國學院大學教授・神長美津子氏を講師に迎え、「幼稚園教育要領改訂の方向を見据えて」をテーマに行われた。続くシンポジウムでは、「教育・保育の質を高める園内研修」をテーマに、共立女子大学准教授・田代幸代氏を講師に迎え、事例提供者として東京都・東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎より中野圭祐氏、神奈川県・林間のぞみ幼稚園より坂井祐史氏、東京都・調布星美幼稚園より深津あゆみ氏、コーディネーターとして安達讓（公財）全日私幼研究機構研究研修専門委員が行った。2 日目は、午前の口頭発表Ⅰ、午後の口頭発表Ⅱそれぞれ 10 発表が行われた。また昼食の時間と並行して、41 のポスター発表が行われた。

(5)全国研究研修の推進

①全国研究研修担当者会議の開催

1 月 19 日・20 日の両日、京都府京都市・京都ガーデンパレスにおいて、「平成 28 年度全国研究研修担当者会議」を開催し、全国から都道府県研究研修担当者等あわせて約 110 名の先生方が出席した。1 日目は「研究研修委員会の取組」について宮下友美恵・研究研修委員長から報告を行った。続いて「新幼稚園教育要領について」をテーマに文部科学省初等中等教育局視察官の湯川秀樹氏が講演を行った。引き続き文部科学省初等中等教育局視察官の湯川秀樹氏を講師とし、参加者間でグループワークを行った。その後、地区ごとに分かれグループディスカッションを行った。2 日目は「幼児教育の根幹になる学力観について」をテーマに田中雅道・（公財）全日私幼研究機構理事長による講演が行われた。

②地区教育研修大会の実施

北海道地区＝8月1日・2日（北海道・札幌市）、札幌ブロック：10月28日、29日（札幌市）、道

央ブロック：8月27日（石狩市）、道南ブロック：10月8日（函館市・北斗市・七飯町）、道東ブロック：9月24日（釧路市）、道北ブロック：10月1日（稚内市）、東北地区＝8月19日・20日（福島県・福島市、伊達市）、関東地区・神奈川地区＝8月23日・24日（埼玉県・さいたま市）、東京地区＝7月16日・17日（東京都・千代田区、渋谷区）、東海・北陸地区＝7月28日・29日（三重県・四日市市）、近畿地区・大阪地区＝7月28日・29日（和歌山県・和歌山市）、中国地区＝8月22日・23日（山口県・長門市）、四国地区＝8月4日・5日（高知県・高知市）九州地区＝8月4日・5日（佐賀県・佐賀市）

③地方の教育研修体制のサポート

各地域における教育研修体制のサポートについて検討を行い、各都道府県における研修会に対しての助成事業を行った。

④園長・リーダー研修の実施

全国の幼稚園・認定こども園の園長等を対象とした研修について、教育のリーダーとして必要な研修内容等について検討を行い、「教育・保育を創る」「マネジメントを構築する」「同僚性を高め保護者・地域・社会・行政と連携する」の3つの課題を中心にカリキュラム案を作成した。

11月25日・26日・27日の3日間、「園長・リーダー研修会」を開催し、全国から約90名の参加を

得た。

1日目は東京都・東京大学福武ホールを会場に、（公財）全日私幼研究機構田中雅道理事長が「今、園長・リーダーに必要なこと」をテーマに講義を行った。次に、東京大学大学院秋田喜代美教授が「園長・主任のリーダーシップを考える」をテーマに講義を行った。続いて、「今日的な教育・保育の課題とは」をテーマに、聖徳大学小田豊教授と（公財）全日私幼研究機構田中雅道理事長による対談を行った。1日目の最後は、聖徳大学小田豊教授が「幼稚園教育要領の変遷から考える」をテーマに講義を行った。

2日目は東京都・武蔵野大学へ会場を移し、講師に一般社団法人日本体験学習研究所の杉山郁子氏、林芳孝氏を迎え、「人間関係づくり／ワークショップを中心に①②」をテーマにグループワークを行った。続いて、大妻女子大学岡健教授を講師に、（公財）全日私幼研究機構黒田秀樹研究研修専門委員をコーディネーターに、「保育を語る力×保育を語る視点／グループワークを中心に」、「保育を語る力×保育を語る視点／写真レポートをもとに」の講義とグループワークを行った。

3日目は東京都・武蔵野大学を会場に、社会保険労務士法人人材総研より社会保険労務士の安岡知子氏を講師に迎え「園長・リーダーのための人財マネジメント～教育・保育の質を担保し続けるために～」の講義を行った。続いて全日私幼連経営委員会が「よ

地域で愛される園になるためのサポートブック

園のリーダーのために

保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価：本体価格926円＋税
B5判 72ページ

2017年7月号の主な内容

●保育ナビスペシャル対談

最近見かけない子どもの「道」遊び。まちづくり研究の第一人者、千葉大学の木下勇教授に「道」の役割を中心に、子どもの育ちに欠かせないまちの環境を作り出すヒントをうかがいます。

●特集 乳児保育の意義 ～子どもの未来につながる保育の質を考えよう～

0歳児の保育が変われば園が変わる――。そんな確信を抱ける自主シンポジウムの報告と海外での研究成果から乳児期の保育の重要性を考えます。

●組織の活性化は若手の成長がカギ！若手保育者の育成法

今月のテーマは「事例検討のすすめ」です。若手職員には文字記録やAV(audio visual)記録等多様な方法を活用し、様々な事例を検討して成長を促していきます。



ISBN978-4-577-81412-3

787

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フレイベル館**

り進歩した職場環境を作り上げるために」をテーマとし、グループワークを行った。最後に、3日間の研修の締めくくりとして文部科学省初等中等教育局長藤原誠氏を講師に迎え「初等中等教育の動向と幼児教育の充実」をテーマに講義を行った。

(6) 0～2歳児の発達と保育についての研修会の企画

各地区において乳児期の育ちを支える研修の充実や保育者の育成を目的とした研修会の企画に取り組んだ。

(7) 「研修ハンドブック」の活用周知

「保育者としての資質向上研修俯瞰図」の改訂に伴い、「新版・研修ハンドブック」の周知・活用を図った。

(8) 優秀教員表彰者制度の実施

本財団「優秀教員表彰者」制度の要項等に従い表彰者を8人選定し、第7回幼児教育実践学会（8月18日）において表彰式を行なった。

(9) 「いのちを大切に作る日」への取組

命の貴さに向き合うなかで命あることに感謝すると共に、3月11日の出来事に思いを寄せる日を制定し各地域・各園での取組を奨励した。

2、幼児教育に関する調査及び研究

(1) 乳幼児を対象とする家庭教育支援事業の研究

乳児を含めた小学校入学前の子どもの育ちにとって、本当に必要な環境とは何かについて研究を行った。

(2) 乳幼児の育ちを支える地域の教育支援事業の研究

地域の教育機能が低下している現状を踏まえ、幼稚園が行う地域の教育機能支援についての研究を行った。

(3) 乳幼児期の子育ち環境のあり方の研究

幼稚園の環境として砂場に焦点を当て、遊びの中での行動や人間関係、言葉の発達などについて調査し、子どもの育ちの視覚化を行った。

(4) 幼児教育実践事例研究

各都道府県、各地区等で研究されている実践事例について、幼児教育実践学会において口頭発表ならびにポスター発表で研究発表を行い、その研究発表

概要を私幼時報に掲載した。

(5) 5歳児が幼稚園にいることの意味を考える

「5歳児が最年長であるがゆえに育つこと」についての実践研究にあたっては、幼稚園教育要領の改定の時期を踏まえ、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿として建言できる研究としても取り組んだ。

(6) 幼稚園教育の改善・充実調査研究委託事業

幼稚園における喫緊の課題である「乳児の育ちと保育の在り方」「行政と連携した幼児教育の質向上・評価」についての調査研究を公募・選考し委託事業の実施について検討を行った。

(7) 幼稚園におけるインクルーシブ教育システムの充実に関する調査研究

「障害差別解消法」の施行に伴い、関連機関と協力して調査研究を進め、インクルーシブ教育にむけての啓発や個別の合理的配慮の充実など保育の質の向上に努めたい。

(8) 学校評価

本財団が指向する公開保育を活用した幼児教育の質の向上システムの構築と公開保育コーディネーター養成の取組を推進することで、私立幼稚園における学校評価の充実を図った。公開保育を活用した幼児教育の質の向上システムの効果を追跡アンケート調査によって検証した。認定こども園の第三者評価については、「幼稚園・幼保連携型認定こども園における評価実施試行例」を用いて、神奈川県、山口県、佐賀県の認定こども園3園において実施した。

(9) 東日本大震災への対応

本財団で企画・制作した記録映像を用いて、東日本大震災で被災された私立幼稚園の復興への取組を各地区の研修会等で取り上げた。また、本財団機関誌「私幼時報」にて東日本大震災の特集を組み、震災に対する意識の向上に努めた。

3、家庭・地域における幼児期の教育力向上への支援と広報活動

(1) P T A しんぶんの発行

「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」をスローガンにPTA しんぶんを発行し、幼児教育や

幼児の発育・子育てに役立つ情報等を掲載した。年間 11 回発行、4 月号は全国の私立幼稚園全園児に対して配布を行った。著名な方々の子育て体験や幼稚園体験、学識経験者の連載企画、子育てのヒント、全国の園長等が執筆する「育ての心」「ふれあい」などのコラムを掲載した。

(2) 賛助会員の加入促進

PTA しんぶん 4 月号を全園児に配布する等、積極的に働きかけて、賛助会員の加入促進に努めた。

(3) 私幼時報の発行

全国の私立幼稚園設置者・園長を対象に本財団の機関誌「私幼時報」を発行し、幼児教育振興法、政府予算概要、乳幼児保育実践政策学セミナー報告、地区教研大会等の研修大会の内容、免許状更新講習一覧、第 7 回幼児教育実践学会の口頭発表・ポスター発表の概要等を掲載して情報提供を行った。

(4) ホームページを活用した広報活動

ホームページを活用して、幼児教育に携わる者、子育て中の保護者などに向けて、子育ての大切さや尊さを訴えていくとともに、幼児教育に関わる必要な情報提供の更なる充実を図った。

(5) 調査の実施

昨年度に実施した「現代の子どもの生活実態調査」の集計結果を分析し、PTA しんぶん 5 月号、私幼時報 10 月号、ホームページへの掲載を行い、広報啓発活動に努めた。また、第 7 回幼児教育実践学会にて当調査結果のポスター発表を行った。

(6) 幼児教育の発展に寄与する絵本の顕彰

第 8 回ようちえん絵本大賞は、「新しい絵本をみつけよう」をテーマに、いろいろなジャンルから、“子どもに読み聞かせたい絵本”、“お父さん・お母さんに読んでほしい・お勧めしたい絵本”を選考の基準として、最近出版された絵本の中から調査広報委員会が選考を行った。その結果、特別賞 3 作品を含む 15 冊の絵本が第 8 回ようちえん絵本大賞に選ばれた。

【(公財) 全日私幼研究機構理事長賞】ちがうねん(クレヨンハウス)、【調査広報委員長賞】いしゃがよい(福音館書店)、【こどもがまんなか PROJECT 賞】きょうはそらにまるいつき(偕成社)、もうぬげな

い(ブロンズ新社)、ごはん(福音館書店)、よるのかえりみち(偕成社)、ママがおばけになっちゃった!(講談社)、まって(あすなろ書房)、おひめさまはねむりたくないけれど(そうえん社)、とんでもない(アリス館)、ぺんぎんたいそう(福音館書店)、絵巻じたて ひろがるえほん かわ(福音館書店)、でてくる でてくる(ひかりのくに)、どっちもね(絵本館)、ドングリ・ドングラ(くもん出版)

(7) こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動

PTA しんぶん、私幼時報、ホームページ等において、「こどもがまんなか PROJECT」にかかる記事の掲載や告知を行うなどして、こどもがまんなか PROJECT 推進のための広報活動を行った。

4、幼児教育における国際交流等に関する事業

平成 29 年 3 月 12 日に開催された東京大学発達保育実践政策学センター(Cedep) 公開シンポジウム「乳幼児期からの縦断研究 幸せな人生のために何が必要か」に共催し、役員等を派遣した。また、昨年度行われた東京大学乳幼児保育実践政策学セミナー「園におけるリーダーシップ: 東アジアの改革動向」の報告を私幼時報に毎月掲載した。

5、本財団の組織・運営に関する事項

(1) 各都道府県団体との連携強化

各都道府県団体と連携を図りながら上記の事業に取組み、成果を得られた。

附属明細書

平成 28 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

(公財) 全日私幼幼児教育研究機構
正味財産増減計算書
平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,135	28,403	△ 24,268
特定資産運用益	5,859	1,307	4,552
会費	72,645,150	71,777,450	867,700
普通会員会費	3,000,000	3,000,000	0
賛助会員会費	69,645,150	68,777,450	867,700
事業収益	91,650,151	84,252,522	7,397,629
全国研究研修担当者会議収益	3,904,000	5,020,000	△ 1,116,000
教員免許更新受講料収益	81,805,156	71,900,469	9,904,687
調査研究事業収益	3,539,995	2,216,553	1,323,442
幼児教育研究実践学会収益	2,401,000	5,115,500	△ 2,714,500
補助金等	60,280,000	60,280,000	0
日宝協助成金等	44,280,000	44,280,000	0
地区別研修会助成金	16,000,000	16,000,000	0
寄付金	0	50,000	△ 50,000
雑収益	6,237,730	6,828,076	△ 590,346
受取利息	4,392	13,564	△ 9,172
その他収益	6,233,338	6,814,512	△ 581,174
事業活動収入計	230,823,025	223,217,758	7,605,267
(2) 経常費用			
事業費	213,902,957	219,781,943	△ 5,878,986
給料手当	22,977,115	21,755,966	1,221,149
臨時雇賃金	4,022,561	2,936,639	1,085,922
退職給付費	1,016,480	2,174,200	△ 1,157,720
福利厚生費	3,303,352	3,077,492	225,860
会議費	35,441,565	35,671,428	△ 229,863
旅費交通費	26,571,251	33,208,525	△ 6,637,274
通信運搬費	46,322,280	47,743,841	△ 1,421,561
消耗品費	1,646,690	1,657,282	△ 10,592
印刷製本費	50,014,327	50,663,788	△ 649,461
賃借料	1,307,767	1,175,813	131,954
諸謝金	17,238,016	16,035,730	1,202,286
支払手数料	116,230	134,698	△ 18,468
支払寄付金	1,200,000	1,200,000	0
雑費	2,725,323	2,346,541	378,782
管理費	10,589,931	12,753,493	△ 2,163,562
給料手当	5,744,278	5,438,991	305,287
退職給付費	254,120	543,550	△ 289,430
福利厚生費	825,837	769,373	56,464
会議費	756,385	703,227	53,158
旅費交通費	2,246,128	4,242,491	△ 1,996,363
通信運搬費	94,530	55,243	39,287
消耗品費	73,942	97,764	△ 23,822
印刷製本費	34,315	85,333	△ 51,018
賃借料	12,208	84,444	△ 72,236
諸謝金	304,041	167,055	136,986
支払手数料	20,660	22,820	△ 2,160
雑費	223,487	543,202	△ 319,715
経常費用計	224,492,888	232,535,436	△ 8,042,548
当期経常増減額	6,330,137	△ 9,317,678	15,647,815
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	6,330,137	△ 9,317,678	15,647,815
一般正味財産期首残高	64,879,912	74,197,590	△ 9,317,678
一般正味財産期末残高	71,210,049	64,879,912	6,330,137
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産期末残高	100,000,000	100,000,000	0
III 正味財産期末残高	171,210,049	164,879,912	6,330,137

(公財) 全日私幼幼児教育研究機構
貸借対照表
平成29年3月31日現在

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
流動資産			
現金・預金	71,789,497	65,181,902	6,607,595
未収入金	3,091,185	2,034,393	1,056,792
流動資産合計	74,880,682	67,216,295	7,664,387
固定資産			
基本財産			
基本財産引当資産	100,000,000	100,000,000	0
基本財産合計	100,000,000	100,000,000	0
特定資産			
退職給付引当資産	11,490,800	10,220,200	1,270,600
特定資産合計	11,490,800	10,220,200	1,270,600
その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	111,490,800	110,220,200	1,270,600
資産合計	186,371,482	177,436,495	8,934,987
II 負債の部			
流動負債			
前受金	3,412,500	2,084,500	1,328,000
預り金	258,133	251,883	6,250
流動負債合計	3,670,633	2,336,383	1,334,250
固定負債			
退職給付引当金	11,490,800	10,220,200	1,270,600
固定負債合計	11,490,800	10,220,200	1,270,600
負債合計	15,161,433	12,556,583	2,604,850
III 正味財産の部			
指定正味財産			
寄付金	100,000,000	100,000,000	0
指定正味財産合計	100,000,000	100,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(100,000,000)	(100,000,000)	(0)
一般正味財産	71,210,049	64,879,912	6,330,137
正味財産合計	171,210,049	164,879,912	6,330,137
負債及び正味財産合計	186,371,482	177,436,495	8,934,987

平成29年度

日本私立学校振興・共済事業団より 特定健康診査のご案内を送付します!

特定健康診査とは?

40才から75才(誕生日前日まで)の加入者及び被扶養者に対して実施するメタボリックシンドロームに特化した健診です。

私学事業団



被扶養者分
健診データ

医療機関



特定健康診査のご案内
受診券(被扶養者分)

加入者の定期健診結果
(人間ドックを含む)

必ずお渡し
ください!

私立幼稚園



受診券
(被扶養者分)

ご家族(被扶養者)



特定健康診査受診
(平成30年3月31日まで)

メンタルヘルス等相談サービス

相談料無料

私学事業団健康相談ダイヤル

心と体のさまざまなご相談に医師・保健師・助産師・看護師などがお応えします。

対象者: 加入者(任意継続加入者を含む)とそのご家族及び75歳以上の教職員

健康相談

メンタルヘルス相談

医療相談

育児・介護相談

通話料
無料

0120-24-7831

24時間
年中無休

WebカウンセリングURL

<https://t-pec.jp/websoudan/>

ユーザー名: shigaku

パスワード: 247831

電話・面談・Webによるメンタルヘルスカウンセリングも行っています(面談は、年度内5回まで無料)。

通話料無料 0120-36-8102 セカンドオピニオン相談 月曜日~土曜日 午前9時~午後6時
プライバシー保護を厳守しておりますので、安心してご利用ください。

日本私立学校振興・共済事業団

福祉部 保健課 健康管理係・保健係

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5

電話 03 (3813) 5321 (代表)

FAX 03 (3812) 8775

教員の自主的な計画・運営による園内研修

○瀬戸口優子（東豊中幼稚園） 篠原理恵（東豊中幼稚園） 藤田美陽子（東豊中幼稚園）
藤本真知子（東豊中幼稚園） 井上啓子（東豊中幼稚園） 平野 愛（東豊中幼稚園）
橋本祐子（関西学院大学）

はじめに

本園は保育の質・教員の資質能力の向上を目的とした園内研修を重視し、定期的を実施している。研修内容の計画や運営は、管理職（園長・主任等）が中心となるのではなく、全ての教員がリーダーシップをとって行える体制にしている。本研究では、これまでの園内研修の歩みを振り返り、教員が計画・運営する研修が実施できる背景にある要因を整理した。また、実際の園内研修の事例から、主体的に学び合う研修が、どのような教員の姿につながっているのかを考察した。

1. これまでの園内研修の歩み

過去14年間を4つの期に分け、研修に対する教員の意識や態度がどう変化してきたかを振り返った。

《**教えてもらう・聞く授業期**》本園に研修が根付き始めた当初（H14～H20）は、園内研修は「教えてもらい学ぶもの」という意識が強かったため、学ぶ意欲はあったものの、自分たちで研修内容を考えることは一切なく、受け身の姿勢で参加していたといえる。

《**授業タイプから考え学ぶ期**》教員の積極性を促す管理職の助言から、次第に受け身のままではいけないと考えるようになり、園内研修係が取り入れられた。この時期は、教員が一丸となって園内研修に取り組んでいた。

《**日々の保育に追われ園内研修ができなくなった期**》H24年度から新任や経験の少ない教員が増え、日々の仕事や指導に時間が費やされ、研修の日程が取りにくくなった。また、研修係を負担に感じる教員もいたため、研修の回数が減少していった。

《**このままではダメだ期**》数人の教員がこのままではいけないと感じ始め、意識的に年に数回の研修を実施するようになった。

しかし園内研修においては、全体的に緊張感がある、発言者が限られているといった状況や、間違えることや周りからの評価が気になる、発言をためらうといった態度が見られ、改善に至るまでには時間を要した。

2. なぜ、自主的な計画・運営による園内研修ができるようになってきたのか

研修ができなくなった期においても、高いモチベーションをもち続けながら、園の理念を実践につなげ、保育の楽しさを実感する教員もいた。そのような教員が、教員間で保育に差が出始めている、保育観の共通理解ができていないという現状に疑問をもち、全員で基礎から学ぶ必要がある、保育の楽しさをみんなで共有したい、という思いをもつようになった。また「学ぶための時間は自由に使い、やりたいことはチャレンジしてよい」という理事長・園長の後押しが、「任せてもらえる」信頼感と「見守ってもらえる」安心感となり、「自分たちで研修を作り上げていこう」という呼びかけへとつながった。

園内研修の改善に向けた取り組みの中で、「教えてもらう態度から学び合う態度」へ変化し、自主的な園内研修ができるようになった過程を振り返り、その背景にある要因を大きく3つに分類した。それらが互いに働き合いながら、現在、園内研修が実施できていると考える（図1）。

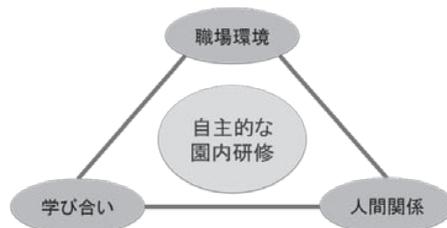


図1 自主的な園内研修を行うための3つの要因

《**職場環境**》①フリー教員の数が増えたことにより、時間的余裕ができた。

②すべての仕事を役割分担し、経験年数に関係なく、責任ある仕事を任される機会をつくっている。先輩は後輩に対して「聴く・任せる・支える」態度をもつ。

③教員同士の交流の場（研修旅行等）が多く、個性を認め合い、得意分野で力を発揮し、補い合える関係ができる。

《**人間関係**》同僚性と平等性を大切に、教員一人ひとりが期待され、互いに傾聴し、先輩

も謙虚さをもち続ける関係をつくっている。
「人は失敗することで考え学び、そこから知識を構築していく」という本園の教育理念が、幼児への関わりだけでなく、教員同士の関係においても根付いてきている。

《学び合い》保育参観(互いに保育を参観し、意見を交換する)を日常のスケジュールに組み込んでいる。それぞれの成長段階にいる教員が学び合い、保育観を共有できる場である。

3. 主体的な園内研修の概要と事例

H26年度から、年間12回程度を目標に園内研修を実施している。日程は土曜日(3時間)や園児代休日(3~6時間)。園内研修の司会進行は、主担当(1人~複数人)の教員が行う。主担当は立候補制で決めるが、年功序列ではなく、後輩を巻き込んだペアづくりをしている。主担当がテーマを決め、ねらい・内容・時間配分・手法を要点とし、計画書を作成する。

《大切にしていること》①主体的に参加する。②コミュニケーションをとり、人間関係を豊かに育む。③互いに学び合う心を大切にする。④積極的に行動する力を伸ばす。⑤経験年数は関係なく、全員が同じ立場で参加する。⑥どの意見も大切に聴き、否定したり、その人の評価につなげたりしない。

《園内研修の事例①》自園の教育方針に基づく保育(毎年度、初回の園内研修で自園の教育理念・方針について学び合っている。)

①教育方針の共通理解:園の教育理念のキーワードの部分空白にしたワークシートに自分なりの言葉で書き込み、全員で共有した。

②教育方針に結びついた保育活動中の子どもの姿の発表:教育方針を実際の保育にどう結び付けているかを、3名の教員の実践例を通して学び合った。(①と②はコの字型での話し合い)

③子どもの姿から保育を考える:事例をあげ、担任としての関わりやクラス運営について小グループで話し合い、その後、ボードを使って視覚化し、全員で共有した。

⇒自分の保育観を再考し、伝わるような話し方を考えたり、様々な角度からの捉え方があることを知ったりする機会となった。保育での悩み



や疑問を語り合うことで、チームとしての絆や同僚間の信頼関係が深まる場にもなった。

《園内研修の事例②》自園が目指す保育者のあり方(子ども同士のトラブルや保護者への対応が増え、あるべき保育者の姿を全員で考える必要性を感じ、テーマの設定をした。)

①理想の保育者像:経験の少ない教員が気を遣わず意見を述べられるよう、経験年数の近い教員が小グループ(3~4人)で話し合った。グループごとに付箋、模造紙を使って考えを視覚化し、全体で発表をした。⇒新たな気づきや共通認識につながった。

②ロールプレイ:子どもへの援助や保護者への伝え方、個人懇談における保護者への対応の方法について、役割を演じて学び合った。⇒それぞれの感情を想像し、相手の立場に立った関わりについて考えた。言葉や態度、表情によって、保護者に与える印象が変わることを再認識した。

③保育者のあるべき姿のポスター化:新任から中堅の5名が、組織の一員としての自覚と責任を感じながらポスターを作成し、目に触れる場所に掲示している。⇒意識の向上・持続と、互いに指摘し改善しようとする姿につながっている。

まとめ

自主的に園内研修を行うようになった結果、教員一人ひとりが自分にできることを考え、保育に対する積極性も出てきた。また、経験年数が少ない教員も自分の保育観をもち始め、経験豊富な教員は、実践と理論を結びつけ、明確に話ができるようになってきている。

園内研修とは日々の教員間の話し合いとも、普段の会議とも違い、話し合いの形式を目的や内容に応じて変えることができ、自分たちが今、話し合いたいテーマを選び、その一つ一つについて、全教員が丁寧に学び合える貴重な時間である。今後も、教員一人ひとりが園の発展と、よりよい保育を目指すという同じ目的をもち、研究を続け、高め合っていきたい。



子どもの育ちを支える言葉がけ・環境構成のタイミング
吉村早紀（学校法人木内学園はのうら幼稚園）

【研究テーマ設定の理由】

子どもたちの中から生まれたあそびを観察・理解し、活動の様子を振り返る中で、言葉がけの仕方やタイミングに工夫がしていると感ずることがある。そのタイミングは一人一人違ったり、活動内容によって変わってきたりする。子どもたちの自主性や想像力を伸ばし、友だちとのつながりをしっかりと感じられるような言葉がけや好奇心を膨らませる環境構成について考えていきたい。

【研究の経緯】

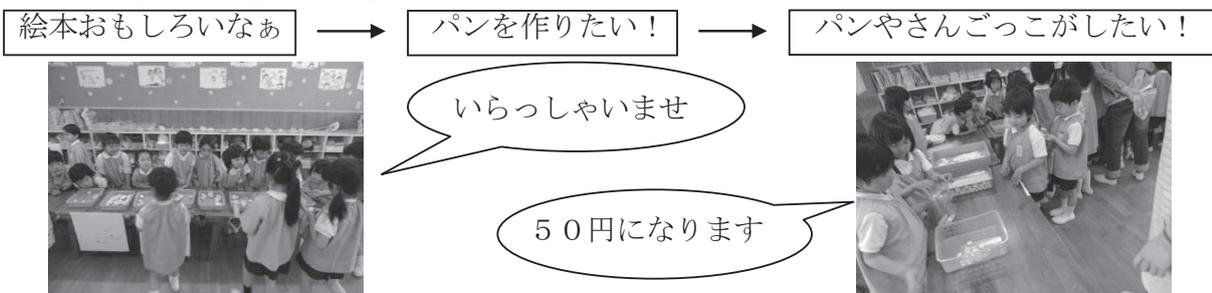
27年度4歳児の4月の子どもたちの姿を見て、気持ちを合わせてあそびを進めたり、友だちの思いを受け止めてあそびを発展させたりしていく力も、もっと伸ばしていきたいと感じ、それぞれの子どもの自主性を大切に、協同的なあそびがより広がるように1学期、援助してきた。2学期には、1学期の姿を基に園の行事『製作展』に向けて製作活動を通して行事でしか味わうことのできない充実感を体験してほしいと願い、「やってみよう！」と感じたことにはすぐに挑戦できる環境を整えた。

28年度は、昨年度の反省を踏まえ、今年度の子どもたちのあそびの方向性を見ながら、あそびが発展できるように、環境を整えたり言葉がけをしたりしていった。

【27年度の子供の姿】

5月、だいすきな絵本『からすのパンやさん』から「パンやさんごっこがしたい！」という思いを受け止め、子どもたちの活動がどのように広がるか、あらゆる方向性を考え、保育者の援助の仕方や環境設定を工夫した。

《子どもたちの思いの動き》



パンづくりを楽しんでいる中、風車作りを楽しんでいたAさん。集団で遊ぶことが少し苦手であったが、自分が作っている風車を『からすのパンやさん』の絵本にでてくる風車に見立て保育室の前に設置していた。

「パンやさんごっこあそびをみんなと楽しんでほしい。」という願いを持ってかかわってきたが、楽しそうに風車をつくってみんなに説明をしている姿を見て、パンやさんごっこでなくてもみんなと一緒に楽しんでいることに気がついた。

その後、「からすのパンやさんの曲」を作って、パンやさんがオープンしている時は、手作りギターで曲を熱唱し、楽しんでいるA君の姿があった。

二学期になり、幼稚園の行事である『製作展』に向けて『からすのパンやさん』の世界を広げていくことになりました。子どもたちからは、



- ・ 持って飛ばせるカラスが作りたい！
- ・ おいしいパンを作りたい！
- ・ 中に入れるカラスを作りたい！



など、いろいろな意見がでてきた。子どもたちの思いや考えを形にしていきながら、展示する作品作りになり、作ったもので楽しむ経験が十分できていないのではないかと考えた。一学期では、経験したことのない大きな共同製作や色々な素材を使っでの製作活動は、楽しめていたと思うが、個人で作った作品等には、一学期に見られた愛着は、感じられなかった。幼稚園行事に向けての進めかたなど、今後の大きな課題であると感じた。

【28年度の子供の姿】

春の親子遠足の時に、バスの中で乗車していた先生が、鍵盤ハーモニカとハーモニカで曲を演奏した。後日、Bさんが画用紙で「これ、ハーモニカ!」と言って、吹きまねを見せてくれた。それがきっかけで、クラスに楽器あそびが広がり、すずやタンバリンを使ったり、ギターを空き箱で作って演奏したり、どんどんあそびが広がった。楽器作りは、身近な素材を用意し、子どもたちが思い思いの楽器が作れるよう環境を整えた。また、「みんなに見てもらいたい。」という思いから、保育者が演奏会を提案してみたところ、会場作りやポスター作りなど子どもたちが試行錯誤をして作りあげた。ポスターを書く時には、昨年度『からすのパンやさんごっこ』を経験したCさんが「こう書いたらいいよ!」とアドバイスをする姿が見られた。お客さんに前に演奏をしている子どもたちは、とてもうれしそうで、満足そうであった。



【まとめ】

日常の子どもたちの姿、つぶやき、気持ちをしっかりと把握し、様々な立場にいる子どもたち一人一人の思いを大切にしたい計画を立てることが大切だと考えた。また、幼児理解をすることはとても大切だが、こうであると決めてしまうのではなく、子どもたちの思いの移り変わりのスピードに柔軟に対応できる計画であるべきだと感じた。

あそびが継続していくための環境設定や準備物の工夫が、子どもたちの活動内容や思いに合っているものであるか、より深めるものであるかを考え、子どもたちのあそびの姿を思い返し、あらゆる事を想定しながら、環境を整えていった。

4歳児にとって保育者の言葉や援助に大きく影響される様子もあったので、言葉がけの仕方やタイミングに工夫がいたると感じた。言葉がけが多すぎると保育者の思いどおりにあそびが進んでしまうことも、子どもたちの自主性や想像力を伸ばすことができなかつたと反省した場面もあった。

保育の進め方や子どもへのかかわり方、幼児理解について保育者間で話し合ったり、学びあったりすることにより、担任では気づけなかつたいろいろな保育案などが出て、保育していく上で視野が広がった。子どもたちをそれぞれの保育者目線を見て、理解して、意見を出し合うことでよりよい保育につながっていくと思うので、今後も計画・実践・反省・評価を一人でするのではなく、保育者間で一緒に振り返り、話し合ったり、相談し合ったりしながら保育を進めていきたい。

異年齢保育の質の向上を目指して
～保護者も一緒に「遊び」考えよう～

濱田恵 窪田由利枝 小林美佐子 (神戸女子大学附属高倉台幼稚園)

【問題と目的】

本園では、平成17年度より主体的な遊びの充実を目指し異年齢保育に取り組んでいる。縦の人間関係の中から「人と関わる力」や「言葉の力」の育ちを捉え、環境や適切な援助を考察してきた。幼児教育は、保護者と価値観を共有し相互に連携していくことが育ちに繋がる。そこで、異年齢保育の質の向上を目指して、日々の保育の中で保護者と共に幼児教育の大切さや子どもが育つ遊びを考察していく。

【方法】

1. 異年齢保育の交流の場「なかよしタイム」を通して、エピソード記述やポートフォリオから幼児の姿やその時々の内面を読み取り、各学年の育つ力を考察する。
2. 保護者も教師と一緒に「遊び」を考える場を提供する。(親子学級) 幼児期の「遊び」からの「学び」を保護者と共有する。(スライムづくり) 夏まつりで子どもが育つ遊びを考える。
3. アンケートを基に考察し、幼児の学びを考察していく。

【内容】

1. 異年齢児の交流の場「なかよしタイム」でのスライムづくりを通して考察する。
 - ①年長児と年少児の遊びのきっかけ
 - ②年少児と一緒につくる為、年長児の話し合い
 - ③グループ活動を通してのスライムづくり

年少(ばんだ組)と一緒に作るには…

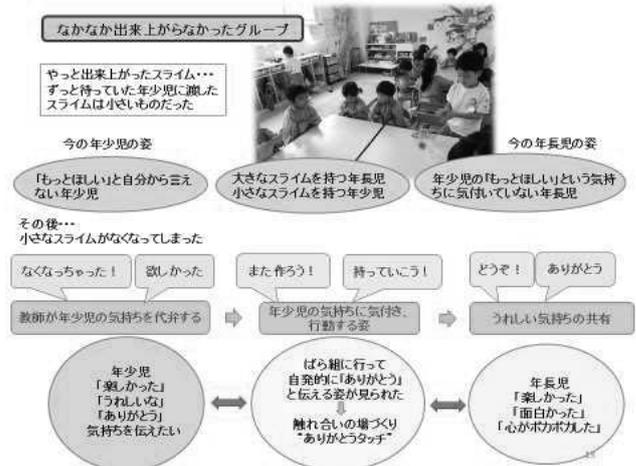
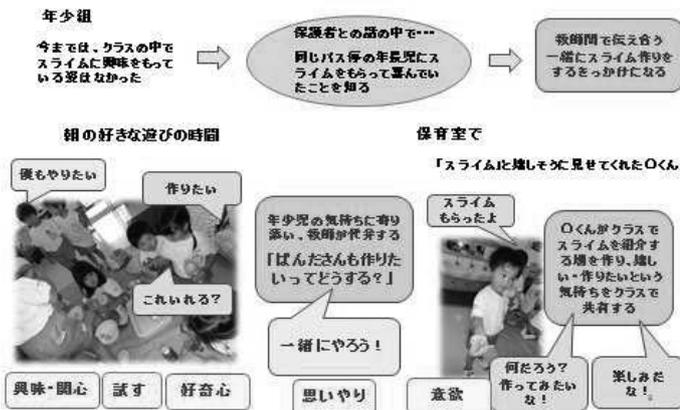


グループ活動での子どもの姿

- 一緒にかかわって作るグループ
- 年少児に作らせてあげるグループ
- なかなか出来上がらなかったグループ



異年齢児でスライム作りをするきっかけ



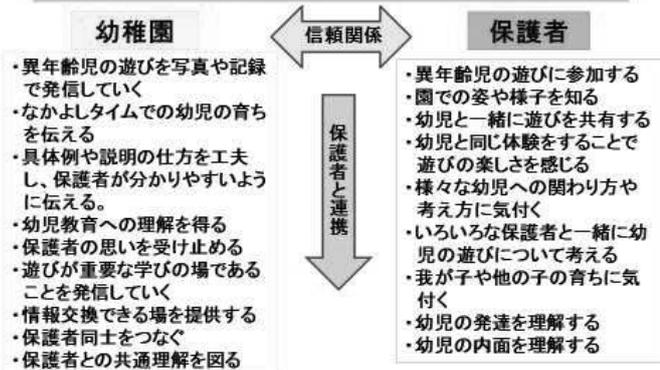
異年齢児の子どもの姿から年長児、年少児の育つ力を考察する。



2. 保護者も教師と一緒に「遊び」を考える。
→保護者が考えた遊びを夏まつりやお泊り保育に繋ぐ。



保護者も一緒に「遊び」を考える



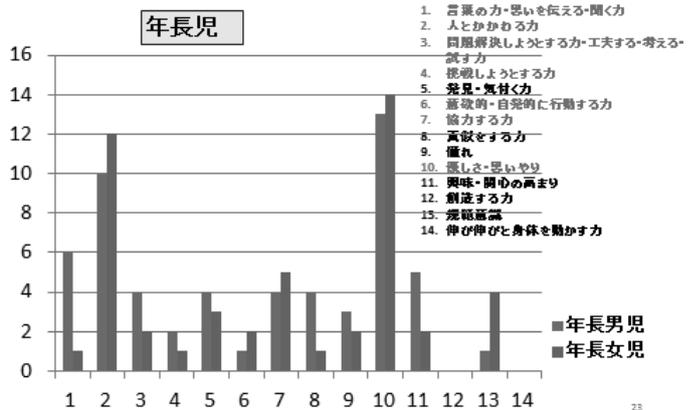
幼児の成長を共に喜び合う

考察

- 幼児の遊びを理解した上で、保護者同士がアイデアを出し合い、幼児が考えたり、工夫したり、挑戦したりという楽しい遊び（缶積み）が生まれた。
- 保護者と共に遊びの計画を練り、連携を取りながら進めていくことも必要である。
- 園において、保護者同士の繋がりや連携の場を意図的に作っていくことが大切である。
- 保護者の声や思いに耳を傾けて、共感的に受け止めていく姿勢をもち、保護者との信頼関係を作っていく事が大切である。
- 遊びを通して、こういうところが幼児の育ちや学びに繋がっていることを話し合う場が必要である。
- 保護者が共に楽しむ姿は、幼児にとって遊びの楽しさをさらに盛り上げてくれる大切な環境になっていると考えられる。
- 保護者が幼児と共に体験や感動を共有する経験を通して、幼児の育ちを知ったり、関わり方を学んだりすることが大切である。
- 園の方針や考えを伝える機会をもち、保護者との連携を図る場や時間、繋がりを大切にしていこう。
- 遊びの中での幼児の育ちを保護者に伝えていくことが、幼児の遊びの楽しさを共感し、成長と共に喜び合うことに繋がるのではないかと考える。

3. 保護者へのアンケートを基に、異年齢交流の遊びから子どもの育つ力や学びを考察する。

保護者が考える異年齢交流の遊びから 子どもに育つ力



【考察・課題】

- 保護者は異年齢児交流の遊びについて肯定的であり、言葉、人と関わる力、優しさが育つと考え、園の方針に理解を示している。
- 教育課程や行事の中での保護者の参加をどう位置付け、子どもの遊びや育ちをどのように共通理解をしていくかが課題である。
- 情報化、機械化、多様化する社会の中において保護者の子育てに対する価値観も様々である。遊びを通しての学びを保護者に情報交流の場を確保し、連携していく必要がある。

園も求職者も満足する 就職活動を目指して ～適性検査・就職説明会～

群馬県には本協会が昭和53年から実施している幼稚園教諭・保育士適性検査があります。内容はマークシート形式の「一般教養」と筆記形式の「教職教養その他」の二つがあります。一般教養は数学、国語、理科、社会・時事、英語、音楽・美術の問題から45問が出題され偏差値によってランク分けされます。このランクは受検者に通知されると共に、次年度の採用を考えている設置者園長も知ることができます。また、教職教養その他については、書かれた文章をそのまま複写したのを見ることができるので、受検生の知識や教養を知ることができます。文章能力や物事の考え方を知ることができ、採用候補者が自園の方針に合っているかどうかの判断基準にもなります。本協会加盟園の教諭は原則的に全てこの検査の受検者から採用されています。しかし、求職者側に就職の主導権が握られてきている現状では、この検査を将来に渡って存続することが難しいという見解もあります。

平成26年度からは就職説明会を始めました。これは、求職者はもちろんですが、広く社会に協会加盟園をPRする機会とするという意義を含めて開催しています。この説明会では、実習した幼稚園や保育園しか知らない求職者にとっては、様々な私立幼稚園や認定こども園の特色や勤務体制などを知ることによって選択肢が多くなり、自分に合った園を見つけられる良い機会になっています。実施した効果は表れてきてはいるものの、参加園が5割弱という状況が課題となっています。

今後の求人活動については「全日私幼連就職支援サイト」に期待したいところです。

((一社)群馬県私立幼稚園・認定こども園協会 総務部副部長、前橋市・幼保連携型認定こども園いずみ幼稚園／守山俊尚)

保育者の資質向上をめざして

香川県私立幼稚園連盟・高松市私立幼稚園連合会では、教職員の人材確保とともに、子どもに寄り添い共感しつつともに育つ保育者としての資質向上を課題として取り組んでおります。

香川県の私立幼稚園の新規採用される保育者は、毎年30名前後採用され、その先生方を対象に年に6回新規採用教員研修会を実施しております。主な内容では、経験豊富な園長先生の講話や県外の有識者による講演（昨年は、東京家政大学の井桁容子氏、山梨大学加藤繁美氏を招致）を実施しています。また、保育現場ですぐに役立つ図工絵画やリトミックなどの指導方法の研修を夏休みに実施しました。さらに、毎年2園に協力いただいて実際の保育現場で、公開保育を見せていただき、新採教員だけで意見交換し、自らの保育を見つめる絶好の機会としています。

また、各園の教頭及び主任を対象に年に2回主任研修会を行い、各園での運営面、経営面等で様々な情報交換を行っております。特に共通する課題にはグループや全体で協議し、その対策や改善案を模索しています。昨年の協議では、「新採教員の子どもや保護者への対応のあり方の指導」について、すぐ実践できる指導のあり方などを話し合いました。

今後、研修の質をより高めるために、公開保育や研修で学んだことを自ら実践しその事例を報告し合い、どのように改善していくかなど一層の工夫をするとともに、来年度から実施される新幼稚園教育要領も踏まえた研修を企画したいと考えています。

(香川県私立幼稚園連盟研究委員会副委員長、高松市・学校法人国東学園くにとう幼稚園／岡三雅)

編集後記

5年前、園庭の真真中に、シラカシ（どんぐりの木）を植えました。木を囲むようにツリーハウスを作りました。週末を利用して作ったので、月曜日に登園してきた子どもたちの驚きの表情と、歓声は今でも鮮明に覚えています。また、西宮の幼稚園から頂いたムクロジや園芸店で購入したトチノキ、ソメイヨシノ、ヒメリンゴ、オリーブなどなど年々樹木の数を増やしています。遠路運んだムクロジでしたが、移植2日目から葉の色が変わり、全部落ちました。更にその葉が付いていた

枝まで落ちてしまいました。移動中や植樹までの管理が原因だろうとひどく落ち込みました。次の年の6月のある日、新芽を見つけた時の感激は忘れられません。今では3m以上に成長し、たくさん若葉を付けています。豊かな自然の中で生活することの重要性は今さら言うまでもありませんが、預かることを最優先に、自然という環境に蓋をしては、豊かな育ちには繋がりません。

(調査広報編集委員・波岡伸郎)

平成29年度（第5回）免許状更新講習の認定一覧

●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 旭川市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月4日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	傅馬淳一郎（名寄市立大学短期大学部児童学科講師） 萩原 拓（北海道教育大学旭川校教授）	6時間	平成29年8月3日	100人	平29-80012-100831号
東京都 新宿区	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は9月3日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	青木 久子（青木幼児教育研究所主宰） 戸田 雅美（東京家政大学教授）	6時間	平成29年9月2日	150人	平29-80012-100832号
神奈川県 横浜市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月28日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	大豆生田 啓友（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授） 三谷 大紀（関東学院大学教育学部こども発達学科准教授）	6時間	平成29年8月29日	100人	平29-80012-100833号
神奈川県 横浜市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月2日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	山室 吉孝（鶴見大学短期大学部教授）	6時間	平成29年8月1日	300人	平29-80012-100834号
岡山県 岡山市	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月3日開催の選択必修講習と連続して行うものです。	黒田秀樹（（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究修習委員会専門委員、東筑紫短期大学講師、西南学院大学短期大学部非常勤講師、（学）黒田学園きらきら星幼稚園理事長・園長）	6時間	平成29年8月4日	100人	平29-80012-100835号

●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 旭川市	「学校を巡る近年の状況の変化」「様々な問題に対する組織的対応の必要性」の2項目について、幼稚園教諭に求められる最新の知識の修得と今日的な教育的課題についての理解を深めることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。なお、本講習は8月3日開催の必修講習と連続して行うものです。	佐藤真虎（旭川大学短期大学部幼児教育学科教授） 川端美穂（北海道教育大学旭川校教授）	6時間	平成29年8月4日	100人	平29-80012-301688号
東京都 新宿区	「学校を巡る近年の状況の変化」「学習指導要領の改訂の動向等」について、幼稚園教諭に求められる最新の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。本講習は、9月2日開催の必修講習と連続して行うものです。	河邊 貴子（聖心女子大学教授） 岸井 慶子（青山学院女子短期大学教授）	6時間	平成29年9月3日	150人	平29-80012-301689号

神奈川県横浜市	幼稚園・認定こども園などを巡る近年の課題は大変大きくなるだけでなく社会的注目を集めている。そのような中で、保護者からの要望の高さや子どもに対応する難しさなどが保育現場では課題とされている。また、園の安全に対する管理が必要なのは当然であり、その中で具体的な保護者対応や園としての発信の課題がある。本講座では上記の課題解決に向けて必要な園としての在り方、更に保育者の意識の方向性などについて具体的に検討したい。なお、本講習は8月29日開催の必修講習と連続して行うものです。	若月芳浩（玉川大学教育学部乳幼児発達学科教授）	6時間	平成29年8月28日	100人	平29-80012-301690号
神奈川県横浜市	子供観や教育観は、その国の歴史や文化、また、それらに培われた倫理観から大きな影響を受けることで形成されている。そして、我々はそれらの影響を無意識的に享受することで子供観や教育観を形成している。よって、それらを客観的視点で再把握した上で、道徳教育のありかたについて考える。また、人工知能の発達により人間の生活がどのように変わっていくのかという視点で、予想される未来の社会において必要とされる道徳教育についても考える。なお、本講習は8月1日開催の必修講習と連続して行うものです。	橋本弘道（鶴見大学短期大学部准教授）	6時間	平成29年8月2日	300人	平29-80012-301691号
岡山県岡山市	学校を巡る近年の状況の変化、学校指導要領の改訂の動向等について、教員に求められる最近の知識・技能の習得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は8月4日開催の必修講習と連続して行うものです。	田中雅道（（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長）	6時間	平成29年8月3日	100人	平29-80012-301692号

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道苫小牧市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の2つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	今野 道裕（名寄市立大学短期大学部児童学科教授） 松井亜樹（札幌大谷大学短期大学部保育学科准教授）	6時間	平成29年8月5日	50人	平29-80012-507442号
北海道帯広市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の2つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	工藤ゆかり（帯広大谷短期大学講師）	6時間	平成29年8月26日	350人	平29-80012-507443号
北海道小樽市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の2つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	丸谷雄輔（学校法人札幌豊学園札幌ゆたか幼稚園園長、(公社)北海道私立幼稚園協会理事（教育研究副委員長）、(一社)札幌市私立幼稚園連合会副会長） 芝木孝満（学校法人聖徳学園なかのしま幼稚園園長、(公社)北海道私立幼稚園協会教育研究委員）	6時間	平成29年8月26日	50人	平29-80012-507444号
北海道釧路市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広め深める」の2つの事項について理解と実践をふり返し、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	二宮信一（北海道教育大学釧路校教授）	6時間	平成29年8月16日	450人	平29-80012-507445号
福岡県福岡市	学び合う組織の風土づくりのために ～主任の役～ 主体的に学ぶ子どもの育成のためには、主体的に学び続ける保育者の存在が不可欠です。 また、若手の保育者が学び続ける保育者へと育つためには、それを支える園風土を、園長のもと具体的に取り組む主任の存在が大きな役割を果たしています。 本講義・演習ではこうした営みを主任として進めていくための具体的な手法を学んでいきます。	岡 健（大妻女子大学教授）	6時間	平成29年8月10日	100人	平29-80012-507446号
福岡県福岡市	講座1、就学前の発達や行動等が気になる子どもの見立てや方針の立て方、支援の方法を具体例を通し、保護者支援は、虐待に関する基礎知識や虐待防止の観点を踏まえ、気になる子どもの保護者への接し方や対応を学ぶ。講座2、幼児教育は協同性をはじめ「人と関わる力」が重要視、自立・協同性・道徳性・規範意識・社会生活・伝え合い、「関わり」を大切に「人と関わる力」に焦点を当て具体的な事例を交え必要性や保育のあり方を学ぶ	鬼塚 良太郎（九州龍谷短期大学准教授） 脇 信樹（長崎大学准教授）	6時間	平成29年8月1日	180人	平29-80012-507447号
東京都新宿区	幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じるため4人の専門家による講座を開設する。最新の専門的な知識・技能の習得と、今日的な幼稚園教育の課題についての理解を深めることを目指す。	小林 紀子（青山学院大学教授） 岡上 直子（十文字学園女子大学教授） 赤石 元子（明治学院大学特命教授） 篠原 孝子（聖徳大学兼任講師）	12時間	平成29年8月4日～ 平成29年8月5日	150人	平29-80012-507448号
長野県松本市	本講習では「多様化する家族・家庭への支援」をテーマとして取り上げる。家族は今、大きく変容しつつある。保育者は家族の実態を把握し、家庭や地域との連携を深めながら子どもの発達を促し、子育てを支援していく役割を担う。多様化とともに生じた支援の困難さについて共に語りあうグループワークを含め、個別の支援の重要性を考えたい。	内藤 美智子（松本短期大学幼児保育学科教授）	6時間	平成29年12月2日	100人	平29-80012-507449号
大分県別府市	子どもの食生活をめぐる現状と課題、食生活が心の健康にも影響するとともに食生活が家族の健康や生活、地域との密接な関係があることを理解する。また、食行動問題に対し、園と家庭での対応の仕方なども理解してほしい。 保育内容Ⅳ「言葉」に関する内容にふれながら、児童文化の歴史や当時の子どもの生活や文化を学ぶ。絵本や紙芝居、ペープサートなどの扱いについても、基本を知り、子どもの生活に適した指導について考える。現場で取り入れたいエプロンシアターや手袋人形、外国の指人形の扱いについても学ぶ。	粟生 美幸（上人病院栄養士、別府大学短期大学部初等教育科・保育科非常勤講師） 佐藤 慶子（別府大学短期大学部幼児児童教育研究センター所長、別府大学短期大学部教授）	6時間	平成29年8月9日	20人	平29-80012-507450号

青森県 八戸市	講座Ⅰでは、幼児教育の質向上への取組について、振り返りを行うことの重要性、またカリキュラムマネジメント等について用語の説明も含め解説を行う。講座Ⅱにおいては、保育を支える発達理論について、心理学を根拠に愛着の形成や自我の発達と家族関係等について、講座Ⅲにおいては、健康な生活を営むために必要な栄養管理について、また子どもの発達を成長曲線から考える視点を学ぶ。	岡本 潤子(千葉幼稚園園長、公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構研究研修委員会専門委員、青森市の星短期大学非常勤講師) 遠藤利彦(東京大学大学院教育学研究科教育心理学教授) 吉池 信男(青森県立保健大学教授・医師)	6時間	平成29年8月9日	20人	平29-80012-507451号
神奈川県 相模原市	講座A「気になる子ども」の保育困難と支援について」発達の遅れが心配される子どもや集中困難な様子や落ちつきをなさ示す子どもたちに関する支援について講義を行う。講座2「日本の子どもの歌の変遷をたどって」明治以前にはわらべうたが、明治以降には唱歌や童謡と呼ばれる子どものうたが作られてきた。子どもの歌がどのように変遷してきたのかを概観し、子どもにはどういった曲が相応しいのかを考えるきっかけとしたい。	Toth Gabor(相模女子大学教授) 岡部芳広(相模女子大学教授)	6時間	平成29年8月4日	150人	平29-80012-507452号
神奈川県 相模原市	講座1「幼児期における数と形」幼児期における数と形の理論と内容をより具体例を示しながら、次の保育につながる活動を提案する。講座2「幼児理解」の思想一よりよい実践のために」時代を問わず幼児教育の基盤となるのは、対象となる幼児への理解であり、その思想的蓄積は現代においても学ぶべき点が多い。教育者としての幼児理解のあり方について、思想形成の歴史と今日の実践とを結びつけて捉え直してみる。	後藤 学(相模女子大学准教授) 多和田 真理子(相模女子大学専任講師)	6時間	平成29年8月4日	150人	平29-80012-507453号
神奈川県 相模原市	講座A「社会的養護の現状と、保育・幼児教育における課題」保育・幼児教育のフィールドにおいて、児童や保護者(家庭)にどのように関わらなければならないか、演習を交え、支援の案について考える。講座B「保育の質を支える同僚性」保育の質を担保する上で重要とされる保育者の同僚性について講義を行い、子どもの育ちをともに喜び、よりよい実践に向かうために必要な保育者間の関係づくりについてディスカッション等を通して検討する。	中島 健一郎(相模女子大学専任講師) 浅見 佳子(相模女子大学講師)	6時間	平成29年8月3日	200人	平29-80012-507454号
神奈川県 相模原市	講座A「かがくであそぼう」子どもが1人で、友だちと、先生と出来る科学的な遊びや製作活動を体験する。遊び方を発展させていたり、日常のなかにある不思議を見つけていく。講座B「はんがくであそぼう」ローラー、スタンプなどを用いた凸版、型紙を用いた孔版など、子どもの版画遊びと技法を解説する。また、簡単にできる子ども向けに開発した平版(簡易紙平版画)による版画活動を体験する。	池田仁人(相模女子大学教授) 稲田 大祐(相模女子大学学芸学部子ども教育学科准教授)	6時間	平成29年8月3日	30人	平29-80012-507455号
神奈川県 横浜市	本講習では、障害のある子どもや気になる子どもがいる保育のあり方を考えます。対象となる子どもの理解を深めながら、多面的、多角的視点から多様化する保育のあり方を考えていきます。日々の保育を振り返りながら保育の質を高め、幼児理解を出発点とする保育実践は、幼稚園における特別支援教育を具体化する鍵になります。そこで、この講習では、保育事例を検討しながら子どもへの援助やクラス経営の進め方、保護者との対応や保護者との連携協働のあり方などについて理解を深め学ぶことを目的としています。	野本 茂夫(國學院大学人間開発学部子ども支援学教授)	6時間	平成29年10月28日	100人	平29-80012-507456号
神奈川県 横浜市	本講習では、幼稚園教育の現場のニーズが多様化している現状に対し、心理学的な観点からのアプローチを試みます。この講習は、幼稚園教諭が、心理学的な人間発達理論や、カウンセリングマインドなどについて、専門的な知識を習得することで、更なる資質の向上が期待されるものとして企画されました。その目的のために、①保護者との円滑な関係の構築、②子どもが育つことへの総合的な支援などを中心に講義等を行います。	山崎 和子(鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園園長、鶴見大学短期大学部保育科非常勤講師)	6時間	平成29年8月24日	100人	平29-80012-507457号
神奈川県 横浜市	一人ひとりの子どもの主体的な育ちと学びを支えていくための保育実践の基盤となる「子ども理解」と、その理解に基づいた「援助」を幅広く探究していく幼稚園教諭としての専門性について学び、理解を深めることを目的とします。具体的事例やビデオ・カンファレンスを通して、自らの子どもを捉えるまなざしや保育の枠組みを問い直すと同時に、保育の質を向上していくために必要とされる保育者の資質や、それを支える同僚や保護者との関係構築についても探っていきます。	高嶋 景子(田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学教授)	6時間	平成29年8月4日	100人	平29-80012-507458号
神奈川県 横浜市	近年、質の高い保育が求められています。次期幼稚園教育要領も、主体的学びや対話的学び、深い学びに基づいた保育実践を謳っています。そこで、「子どもの今ここ」「さながらの生活」を大事にした質の高い保育実践とはいかなるものか、また、子どもの自己肯定感を高める保育記録とはどのようなものかを最新の研究をもとに考えていきます。	佐藤 康富(鎌倉女子大学短期大学部教授)	6時間	平成29年8月1日~ 平成29年8月2日	100人	平29-80012-507459号
新潟県 新潟市	「子どもの音楽表現」子どもの音楽表現活動を援助するために必要な音楽の知識や技術を学ぶ。「音楽表現とは」「創造的音楽づくり」についての講義とグループワークの後、リトミック活動、楽器演奏と楽器遊び、歌唱活動などの実践を行い、保育者の援助について考察する。保育者としての感性を磨き、表現力を身につけるために、歌声で表現すること、歌詞の内容を理解することの大切さを学ぶと同時に、子どもの歌のピアノ伴奏法や弾き歌いする方法も学ぶ。	石井 玲子(新潟県立大学人間生活学部子ども学科准教授)	6時間	平成29年8月9日	40人	平29-80012-507460号
鹿児島県 鹿児島市	乳幼児の健康管理や健康教育の進め方、心の発達や発達段階に応じた環境構成及び保育者としてのかかわり方等、乳幼児に関する講座を設定する。乳幼児の健康教育と健康管理、子どもの心の発達などの講義である。	宇都弘美(鹿児島女子短期大学教授) 原口恵(鹿児島国際大学講師)	6時間	平成29年8月2日	35人	平29-80012-507461号
山梨県 甲府市	「保育の方法としての造形活動」-その意味と役割-をテーマにして、造形活動による出会いや経験と成長との関係に視点を置いて考えていきたいと思います。特に「出会い」における表出から如何に表現に妥容するかを考えてみたいと思います。視点1：内的発見…内的循環による自身(心と体)の発見 視点2：外的発見…環境への関わり、環境から刺激による発見 視点3：基本技能の展開についての考察 この3つの視点から、幼児の造形活動における表現の妥容について考えてみます。	伊藤 美輝(山梨学院短期大学保育科・専攻科保育専攻教授)	6時間	平成29年8月2日、 平成29年10月18日、 平成29年11月15日	10人	平29-80012-507462号

山口県 周南市	本講習は、「保育現場での質を高める」ことを目的として、 ①これから求められる幼稚園教育 ②保育臨床の視点を大切にした教育・保育 ③保育者間あるいは保護者との円滑な人間関係 などを中心に講義等を行います。	汐見稔幸（白梅学園大学子ども学部教授） 加藤繁美（山梨大学大学院教育学研究科教授） 重村美帆（宇部フロンティア大学短期大学部保育学科講師） 中島寿子（山口大学教育学部准教授）	6時間	平成29年8月3日～ 平成29年8月4日	50人	平29- 80012- 507463号
群馬県 渋川市	本講習は、国公立の区別なく、幼児教育に携わる教諭の多様なニーズに応じるための講習、幼児教育における専門的な知識や技能の習得、教諭としての資質向上のための意義ある講座とするために、①乳幼児の発達理解、②子どもの内面理解、③家庭教育と子育て支援などを中心に、臨床的な特質を踏まえた講義・演習を行う。	津金 美智子（名古屋学芸大学ヒューマンケア学部教授） 柳 晋（育英短期大学教授） 金子 仁（育英短期大学教授）	6時間	平成29年8月21日～ 平成29年8月22日	30人	平29- 80012- 507464号
群馬県 渋川市	国公立の区別なく、幼稚園教育に携わる教諭の多様なニーズに応じた講習、幼稚園教育における専門的な知識や技能の習得、幼稚園教諭としての資質向上のための意義ある講座とするために、「子どもに寄り添う保育者の視点」を基本テーマに乳幼児の発達理解や子どもの内面理解など、保育現場で役立つ講義・演習を行う。なお2日目は課題持ち寄りによる分科会形式でそれぞれの分科会テーマに臨む。	平山 許江（立正大学大学院非常勤講師） 柳 晋（育英短期大学教授） 金子 仁（育英短期大学教授）	6時間	平成29年8月3日～ 平成29年8月4日	30人	平29- 80012- 507465号
宮城県 仙台市	①子どもの発達を理解し、発達環境について学ぶ。 ②教材研究の視点から科学的な遊びを中心に学ぶ。	三浦 主博（東北生活文化大学短期大学部教授） 板橋 夏樹（宮城学院女子大学准教授）	6時間	平成29年8月12日	100人	平29- 80012- 507466号
宮城県 仙台市	①幼児理解の基本、方法、幼児理解を主眼とした園内研修の行い方について学ぶ。 ②子育て支援を中心とした幼稚園の役割を学ぶ。 講義に加え、随所にグループワークやディスカッションを取り入れて、参加者の視点を重ね合わせながら実践知を共有し合えるような学び合いの機会とする。	和田 明人（東北福祉大学教授、社会福祉法人和森会理事長） 定立 智昭（宮城学院女子大学教授）	6時間	平成29年8月11日	100人	平29- 80012- 507467号
愛媛県 今治市	幼児教育を取り巻く環境の変化に伴い、保護者や地域社会の幼稚園教諭に対する期待は今まで以上に高まっている。その期待に応えていくため、これからの幼稚園教諭に必要な資質や専門性とは何かを考える。また、幼稚園教諭自身の「折れない心」を柱として、保育者の望ましいキャリア形成について学ぶ。	川村高弘（神戸女子短期大学幼児教育学科准教授）	6時間	平成29年8月3日～ 平成29年8月4日	50人	平29- 80012- 507468号

まさかのときの“JK保険” 全日本私立幼稚園連合会の保険

本保険制度は、全日私幼連が指定した損害保険会社の協力を得て、加盟園のために開発した制度です。団体契約となっておりますので、団体割引・優良割引が適用されており、個々にご加入される場合より、割安となっております。



- 園が損害賠償の請求を受けたら ▶ **加入園賠償責任保険**
＜施設賠償責任保険+生産物賠償責任保険＞
- 園児が就園中にケガをしたら ▶ **園管理下の園児傷害保険（0-157補償付）**
＜学校契約団体傷害保険特約付帯普通傷害保険＞
- 24時間・園児の急激かつ偶然な外来の事故によるケガに ▶ **園児24保険（0-157・熱中症・地震補償付等）**
＜こども総合保険＞
- 教職員の方の労災事故に対する上乗せ補償に ▶ **労災上乗せ保険**
＜労働災害総合保険（法定外補償保険）＞

詳細については全日私幼連HP・加盟園のページ「お知らせ」に掲載しております

詳しい内容のお問い合わせは、下記引受保険会社まで ご加入にあたっては必ず重要事項説明書をよくお読みください。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上
三井住友海上火災保険(株)
TEL:03-5299-7663



TOKIO MARINE
NICHIDO

東京海上日動火災保険(株)
担当課:公務第二部 文教公務室
TEL:03-3515-4133

CHUBB®

Chubb損害保険(株)
(旧エース損害保険(株))
TEL:03-6364-7110



損保ジャパン日本興亜

損害保険ジャパン日本興亜(株)
TEL:03-3593-6453
平成28年10月作成 16-T17905